

研究室・事務室等で

回覧して
お読み下さい。

教職員・院生版生協だより

かけはし

No. 252

2004年 3・4月号

発行 名大生協理事会

編集 名大生協教職員委員会

☎ 学内線 7540, 学外線 781-1111



**「柵のない開かれた大学だけど、
中に入ると文化が薫るようにしたい」
と語る平野眞一工学研究科長**

名大生協のホームページ (URL) <http://www.coop.nagoya-u.ac.jp/>
教職員委員会への e-mail あて先 kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

も く じ

主張《新しい名古屋大学の新しい名古屋大学生協へ》	-----	3
【インタビュー】		
学問の魅力、学生、生協への期待－研究科長へのインタビュー⑦		
平野眞一工学研究科長	-----	4
【企画】		
鈴鹿・御在所岳ハイキング	-----	14
イラク戦争開戦1周年学習講演会	-----	15
「劣化ウラン爆弾」「原発燃料」「原爆」でいわれる「劣化ウラン」「濃縮ウラン」とは？		
【報告】		
教職員委員会方針合宿(3/6-7)	-----	16
平和憲章17周年記念企画		
笠木透とともに過ごす平和憲章の夕べ(2/5)	-----	17
安曇野ちひろ美術館訪問ツアー報告その3		
ちひろ色の発見と感動の旅	-----	30
初心・初級スキー教室(2/20-22)	-----	32
教職員委員会の活動日誌	-----	29
【記事】		
私の百名山「八幡平」	-----	18
新フィールドノート－その81－「ドリーム」	-----	22
魔言「大学の格付け」「教科書またミス連発」「グエン・カオ・キ元大統領」「マーケット」	-----	24
投稿「北京興隆往来」	-----	26
ニュースに一喝		
「学歴詐称」「にわとりあわれ」	-----	28
ひとりごと「ファシズムの足音」	-----	37
アンケート・クイズ解答用紙	-----	35
かけはしの輪	-----	38
CO-OP QUIZ<Logic>	-----	裏表紙



「楯のない開かれた大学だけど、中に入ると文化が薫るようにしたい」と語る平野眞一工学研究科長

表紙の「よび」

2月2日、インタビューで工学研究科長室に平野工学研究科長を訪ねた。先生は院生時代に実験が上手く進まず登校拒否をしたことがあるので今の学生の悩みが良く分かる。だからこそ大学には相談できる良い環境、良いコミュニケーションが必要である。名古屋大学は開かれた大学であり、文化の薫る大学にしていきたいと夢を語られた。また、生協への期待として学生の社会生活を学ぶ実践の場であるから、大学とともにコミュニケーションとしての機能を担っていただきたいと熱く語られた。(みのうら)

主張

本格的な春が待ち遠しい季節となりました。教職員の皆さんにとつては、4月からの大学法人化への準備のためにたいへんあわただしい毎日をお過ごしのことでしょう。

この「かけはし」は、3月から4月へ年度をまたがると同時に、名古屋大学が国立大学から大学法人へと転換する時期をもまたがることになりました。

このような画期にあたり、名古屋大学生協は、新しい名古屋大学にふさわしい大学生協として認めていただけるよう、「三つの使命と五つのアクションプラン」(03年総代会決定)に沿った活動をする決意をしています。

「三つの使命」

第一の使命

私達は安心・安全かつ信頼される商品やサービスの提供を通じて、組合員一人ひとりの健康的で豊かなキャンパスライフを支えます。

第二の使命

私達は勉学・教育・研究生活をサポートし、学び・体験の共生空間を広げます。

「五つのアクションプラン」 (項目のみ)

- ① 福利厚生施設の一層の充実
- ② 教育研究勉学サポート
- ③ エコキャンパスづくり
- ④ 地域に開かれた大学づくり
- ⑤ 人と人との共同と参加

「かけはし」では、4月から名古屋大学総長に就任される平野眞一先生(3月まで工学

新しい名古屋大学の 新しい名古屋大学生協へ

第三の使命

私達は名古屋大学における研究・教育の発展を願い、協同組合の活動を通じて人間性と科学の調和的発展に貢献します。

研究科長)へのインタビューの機会を得ました。平野先生は「コミュニケーションとしての機能を、大学と一緒に担っていただけるのも生協の役割の一つじゃないかと思えます」と、生協への期待を語ってくださいました。また、名古屋大学をいつそう開かれた大学に、そして文化の薫る大学にしたい。これは私の夢です。と熱く語られました。

ほっとするような場所＝IBカフェ

今年2月、地下鉄の駅にも近いIB電子情報館1階に誕生したIBカフェは、「開かれた大学」「文化の薫る大学」に向かって小さな一歩になる予感がします。平野先生はIBカフェについて「ユニバーシティとしての交流的なプラザの役割をする所で、ほっとするような憩いと文化を醸し出せたらいい」と期待を語ってくださいました。(詳しくは平野眞一先生へのインタビューをご覧ください)

IBカフェでは、特に教職員の皆さんに「ほっとするような憩い」の場を提供するよう心がけます。夕方からはビールやワイン、お酒なども提供いたします。営業時間は夜9時まで(オーダーストップは8時30分)です。地下鉄で帰宅される方も、ぜひお立ち寄りください。

平野先生が語る「夢」の現に向けて、私たち生協にも役割があるとすれば、これ以上の働きがいはありません。

学問の魅力、学生、生協への期待 — 研究科長へのインタビュー ⑦

平野 眞一 工学研究科長

(ひらの・しんいち)

名古屋大学 工学研究科長 (2003/04-)

名古屋大学 工学研究科 応用化学専攻 教授 (1983/08-)

専門は無機材料化学

現在の研究課題

セラミックスのプロセッシングと評価

無機-有機ハイブリッド材料の合成

電気は趣味にして、 化学を選びました

今井 貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。

名古屋大学が変わろうとしている中で、私も生協も皆さんからお知恵や指摘などをいただきながら、これからいかに大学に貢献できる生協にしていくか、これからいろいろな物資や食事、用品を提供するのは当然ですが、大学とともに大学の中で存在価値を認めていただける生協をつくりたいと考えています。そのため、研究科長である先生方からご指摘をいただきながら、またそのご指摘を私どもの機関誌『かけはし』を通じてみなさんにも紹介しながらやっていこうと考えております。

平野 『かけはし』は見せていただいていますよ。

今井 ありがとうございます。

きょうは工学研究科長というお立場で、研究のことか、学生への思いとかを聞かせてい

ただきたいと思っています。よろしく願います。

平野 はい。お世話になります。

加藤 読者の中では先生方の研究生活とか、技術がどうなっているかということについて関心が高いようですので、先生の研究分野であるセラミックスということではこの地方との関係も深いと思います。その研究のことを一番にお聞きしたいということ、二つ目に、これから学生や大学院生を迎える人たちに對して、生協もそういう点では期待されていることもありますが、大学づくりとか人づくり、どんな学生・大学院生を育てていけるのかというお話を聞きたいということ、三つ目は生協に関わることでアドバイス的なことですか、新規の事業とかも含めていろいろお知恵をいただければと。その三点くらいのお話をうかがいたいと思います。

電気が好きだったので

平野 わかりました。それでは私の研究の背景からお話し申し上げます。私は昭和36年に工学部の応用化学科へ入学しました。私、高校の頃から電気が大好きだったので、先生はそういう方面に行ったらどうだと、他の大学を進めてくれました。しかし私の高校時代の先生は非常にいい化学の先生でして、昨日もたまたま高校の同級の会があったんですが、もうあの先生がねってみんなの話題になったくらいいい先生で、私はよく実験をやらせてもらいました。「ああ、物ってこんなに変化するんだ」って、もう化学の世界に魅せられました。そのころ、無線の、ハムの免許を持っていました。電気が自分の趣味で生きようと……。それで化学を選びました。化学でも理学と工学の両方がありますが、特にその頃、一つの時代背景として石油化学がかなり伸びてくる頃で、西洋に追いつけという時代だったものですから。それから同時に、もうないですかね『蛍雪時代』という本を図書館で見



(2月2日、工学研究科長室にて)

たら、名古屋大学の応用化学の先生方の仕事がいっぱい書いてありました。「ああ、この先生たちに習えたら……」って思いました。さらに私の父の、名古屋に「帝国」大学があるから他の大学に行かなくてもいいという強い言葉もありまして、それで私は名古屋大学に。

抽選で負け、無機化学へ

昭和39年の4月になると、希望を出して研究室に所属することになりました。その頃、石油化学、高分子が出てくる、出てきつつある頃でした。ナイロンはありましたが、もう少し高い温度に耐える材料が、今からいるんじゃないかと漠然と考えておりました。高分子で温度に耐える材料を作りたいと思ひ、私は当然、有機化学の部屋を第一希望に、耐熱材料の研究という点で第二希望に無機材料の研究室を希望しました。有機化学を第一希

望にしたら希望者が多くて、さっき言ったような時代ですから。で、抽選で決めることになったら私一人だけ負けました。一方、高い温度に耐えるとなると無機化学、セラミックスです。そこで私は、そのころあまり希望者の無かった無機化学の研究室に行くことになりました。私一人が動けばみんなハッピーだったんです。普通は有機を第一希望にして、無機を第二希望っていうのはありえない。「平野、有機に近い所が他にあるのになんでまた無機に行くんだ」、って言われました。「いや、おれ温度に耐える材料の研究をやりたいから」って。で、私が無機に行ったものですから、結果的にはみなさんがハッピーです。

その先生は野田稲吉先生とあって、昔この学部長をやられました。で、やってみたら授業とは違いますから、大変面白い。一年が過ぎて、こんどは希望で研究室を動くこともできたのですが、「楽しいからここでやります」と言って修士もそこでやることにしました。その頃私は炭素の研究を始めました。野田先生はその時2000度く

希望者の少ない無機化学で、炭焼き（黒鉛の生成）から始めました。

らしい温度で炭素の結晶化(黒鉛の生成)についての研究をされてました。田舎に行つて「何の研究をやつてるの」と言われて、「炭素の研究、黒鉛の研究やつてます」と言つても分かつてもらえないから「炭焼きです」と言つていました。高い温



【写真】インタビューに答える平野研究科長(後ろ向き)。正面左から加藤、今井、箕浦(2月2日、工学研究科長室)

度と圧力の中で、どういう風に、黒鉛という炭素ができるのかという研究です。

黒鉛の生成

実は今でも使っているのですが、製鉄・製鋼用の大きな黒鉛の電極があり、そこに通電して精鋼、鉄鋼材を作ります。その電極材料を焼くのに今でも2000度以上の温度をかけます。私も結晶化の機構についての研究をずっとやっています。天然の黒鉛の場合は、どうみてもそんな高い温度はかかっていないはずだと思つてました。それで天然の鉱物の本を独学で勉強してみたら、やっぱりそれだけの温度はかかっていない。しかし少し圧力がかかっていることがわかり、やっぱり天然つてやつはすごいんだと思ひました。

野田先生にその研究をやりたい、天然黒鉛がどうやってできるか調べたい、と相談しました。これは言ってみれば理学部的です。地学の鉱物の仕事です。しかし先生は、「いいよ。それをやりなさい」と言つてくれました。そのかわり装置が無い

ものですから、週の半分こちらで授業を受けて、半分は神戸製鋼へ行きまして。それで肉厚円筒の機械設計の人と一緒に機械設計を教えてくれました。機械設計からはじめて、半年間かかって高圧力の発生装置を作り上げました。それを自分の実験装置にして研究を始めました。

うまくいかず悩みました

その時、どうやつてもうまくいかないのですから、私は悩みに悩みました。実は修士の一年の時、私は一ヶ月ほど大学を休みました。悩んだために。だから、今の学生さんでいろいろ悩む人を自分なりには本当に分かつてるつもりです。一種の挫折感ですよ。思つたように研究が進まない。先生にお尋ねしてもそれはわからんつて言われる。自分の周りでは論文発表ができるような成果を出して学会に行く人もあるのに、私は装置がやっと出来上がつて、少しやつてみたつてデータがなんにも出ていないという事態が続きました。

幸い私はそれまで健康で、小

学校から休んだことがなかったのに、そのとき風邪をひいたんです。悩んでいたところで気が弱くなつて風邪をひいたんでしよう、今思えば。それで自分には力がない、役に立たない人間だなあと思ひました。

ある時期にやつぱり自分でやらなければダメだと、思い直したのが二ヶ月くらい後でした。そういう経験をしたところでもた実験を始めました。

失敗が幸い

四月の半ばになつた時のことです。なるべく天然の状態に近い状態にしようと思つていましたから、温度を1000度以上に上げて実験しようとしていましたが、準備中に間違えて少し水を入れてしまいました。これが実は、結果的に良かったのです。

黒鉛というのは結晶になつていない炭素、原料の炭素です。天然では炭酸カルシウムからなる石灰岩の鉱脈の層間にきれいに天然黒鉛ができます。これは本の中に書いてありましたから、それを再現しようと思ひました。しかし水を加えて温度を高

く上げると怖いものですから1000度まで温度を上げるのをやめて650度〜700度くらいでやめたんですよ。約3000気圧の圧力をかけて実験して、試料を取り出し、そのころようやく入った小さな電子顕微鏡で見えたら、実はそのセツトの中に水を入れた間違いが功を奏してですが、きれいな結晶が出来てました。もう涙を出して喜びました。これが私の研究者の始まりです。

実験手順としては失敗だったんですよね、実は。それでも実験ですからきちんと水がある状態を再現しなければならぬので、ある一定量、今度はわざと水を追加してから圧力をかけて実験をしたら、きちつと再現し、これが世界記録の650度での黒鉛結晶の生成だったんです。そこから私は、天然の現象、自然界の現象というものはすばらしい、人工的には再現できないことがあるということを知り、嬉しさといいますか、涙を

流した経験をしました。

すぐ先生のところへ報告に行ったら、はじめ先生も、「ええっ？ そんなの？ 何かの間違いじゃないの？」って。その後、先生が退官される時、最終講義で「こういうことがあった」ってこの話をしてくださったんです。あれが、私にまがりなりにも研究生活を続けてこられた一番のきっかけだったと思います。

博士課程を終え東工大へ

その後私は、会社に就職する予定だったのですが、博士課程へ進学することを強くすすめられ、あと三年残りました。それですと天然の黒鉛の生成の仕方—なぜそうなるのかというメカニズムと、それを工業的に応用するにはどうするのかという研究の一端をまとめて、ドクターをとりました。その最後の頃、東工大からさそわれ、終了後私は東

工大に行きました。東工大では、助手・助教授と八年いました。その時いろいろな天然にある結晶がどういう条件でできたか、あるいは工業材料としての結晶というものが、今でいう熱水、水熱合成という水が存在するもとの、どういうふう育成するのかということを中心に研究をしました。たとえば私たちが使っている水晶を工業的に作るのはこの方法です。

それからまた名古屋大学にこないかっていうので、東工大の助教授からこちらの助教授として帰ってきました。

環境への負荷を減らす

私は無機の結晶に関わる研究をずっとやってきました。セラミックスの中でもガラスではなくて、結晶性のセラミックスをずっと扱ってきたわけです。私はその頃から思っていたのですが、いろんな電子材料に使うセラミックスをなるべく環境に負

荷をかけないように合成したい。セラミックスというのは高い温度で焼き固めるということが基になっていて、ここにある湯呑みもそうですが、でき上がったセラミックスは環境にすぐく優しい、あるいはガスの浄化にも使える非常に良い材料ですが、しかしそれを作るまでにはかなりの環境負荷を与えています。それは大変残念です。自然界にあるものの出来方というのは、環境面から見ると非常に優しい作り方をしているし、私たちが真似ても真似きれないようなすばらしい組織を持っている。無駄がないというか、きれいな形をしています。材料の合成にそのメカニズムを応用したいと思いい、名古屋に戻って来てからずっとそれに関わってきました。

その一つが、低い温度でも電子材料に使える材料化をしようと、もう一度有機化学も思い出し勉強をして、金属有機化合物の分子から、セラミックスそのものに自分が望むような組成と組織を発達させて、材料化していきたいという研究を進めてきました。今まで1300度くらいでしか出来なかったものが、

出来上がったセラミックスは環境に優しい。
が、生成過程の環境負荷をいかに減らすか。

まさに「ナノ」粒子だったのに……。 まさに優れた超電導物質だったのに……。

機能をそのまま出せるものとして、500度くらいで十分できるようになりました。また、ある結晶を作って、切って削ることによって電子材料にしてみました。膜としてそのまま機能が出せるようなパターンというか形が出来るように研究をすすめました。今それが実りつつあります。こうした成果は、学生さんや一緒にやってくれた共同研究者のおかげです。みなさんがこうした分野に目をかけてくれない頃からやってきました。日本で評価されず苦労しましたが、研究室の人たちも一緒にやってくれましたね。さきに海外の方々が注目してくれました。自分たちが言うのもおかしいんですが、おそらく世界をリードしてきたと思っています。そういうふうには外国の人たちが私たちの研究室の成果を見ていていただけるのも大変ありがたいと思っています。

「ナノ」サイズだったのに

私はその頃、ある温度で合成している微粒子、今言うナノの粒子ですが、その粒子合成を無機材料だという意味で研究していたんですが、さらに自然界の現象を見ておきますと、実は磁性の粒子はバクテリアの中にすくきれいで特性もいい粒子があります。走磁性バクテリアと言います。磁気を感じて走る方向を定める、走磁性バクテリア—このバクテリアがあることを1970年くらいに、海外の生物分野の人が見つけ、私はそれを最初の論文からずっと将来の研究課題にしようとして大事にあたためていました。その研究をやってみようと思っていましたね。十年くらい前から、無機有機の「ハイブリッド」と名前を付けましたが、これはあまりかっこいい名前ではありませんでした。今では、あの頃「ナノ」なんとかと言つとけば良かった

と。数十Åで、まさにナノサイズなんです。高分子の中にも100度以下で、機能性ナノ粒子として結晶化できる方法を見つけて出しました。高分子のシート中に、きれいにナノの無機の磁性粒子が出来ます。それは走磁性バクテリアを模倣しながらやった仕事。それは最近、誘電的な材料だとか、光に感じる材料なんかに展開できるようになってきました。

最近ある書き物で、一緒に研究してくれた学生さんに謝りました。当時私は、その粒子に「ウルトラファイブ」だとか「ファインパーティクル」と名付けました。これは私の至らないところでした。これを「ナノパーティクル」と名付けるべきでした。もしそうだったら、これは「ナノ」という言葉が一般的になる以前の「ナノ」論文として引用してもらえたのに、申し訳ないことをしました。外国の人でその仕事をやっている人たちは、うちの論文なんかを見てく

れます。ただし「ナノ」で検索すると引っかけかかってきません。ここ数年は私も「ナノ」というキーワードを入れていきます。

超電導物質だったのに

似たような話ですが、あの超電導のセラミックスの研究です。超電導フイバーになる前から、私も超電導酸化物の研究をやっていました。あの頃、おそらく世界で一番特性の良いきれいな単結晶を作っていました。抵抗の小さなセラミックスを電極として利用するための物質探索をずっとしました。それは今ようやく、燃料電池などのセラミックスの電極材料として注目されるようになってきました。実はその一つが超電導の物質系でした。片方では超電導物質の結晶化と物性測定をやりながら、片方では液体窒素（沸点マイナス196度C）以上の温度での物性を測っていたわけです。後になって超電導物質のことが広く話題になった時には、あの時液体ヘリウム温度（沸点マイナス269度C）まで測定していればよかったのに、他の人に言われました。測

定していれば、それが優れた超電導物質であることを発見していたのに、ということです。

学生の方々には「専門性とともに幅広い知識も併せもったT字型人間になりなさい。アンテナは広く広げなさい」と言っているながら、ここが私の研究者として至らないところです。指導していた学生さんにも悪いことをしました。少なくとも自分のアイデンティティ、自分の専門は持ってなければいけません。しかし材料をやる限り、いろいろな分野の方々と共通の言葉で話が出るような幅広い知識を持ち合わせなさいと。そういう

ことを常々学生に言いながら、自分でそう言いながら、自分が落としていた反省記をつい最近書きました。

環境に有害な鉛を使わない材料の開発

自然界の現象、自然界に生きているものは、無駄のない環境で共生ができる物質です。しかし自然界にあるものでも、濃縮をするといろいろな被害を与え、世界に悪影響を及ぼしたりすることがあります。私たち材料の研究をやる人間としては、元素の濃縮だとか、その後の扱

いは注意をしなければなりません。と、いうわけで物を作るうえで、人と共生ができる調和型のプロセスを開発しなければなりません。セラミックスでも、私は特にここ数年、そういう方向で、プロセスとともに物質・材料を見つけて出すことに重きを

おいています。一例として、環境に有害な鉛を使うような素材に対して、それを使わないで良い特性を出すにはどうしたらよいかということがあります。携帯電話の中でピピッと鳴るような材料、あれはセラミックスの圧電材料を使っています。あれは鉛とジルコニウムとチタンと酸素からなる物質でPZTという圧電セラミックスです。あれは非常に特性的には良い物ですが、鉛を含んでいて、数年前からヨーロッパでも使用を見直す動きがあります。これは日本にとって重要な電子材料で、今世界において大きなシェアを持っています。これが途絶える恐れがあります。環境面から見たらやはり代替材料を研究しなければならぬ。と、ともにこれは日本の問題としてやらなければいけないと思ひまして、私共はここ六、七年ずっと代替材料の研究をしてきました。

ようやく三年くらい前に新しい物質系を見つけて出して、中部TLO (Technology Licensing Organization) を通じて特許化し、国際特許も取りまして、

共同体としてグループを組み、製造の研究に入っていこうというところになっていきます。環境に優しい材料の開発では、失敗を繰り返して、時間もかかる基礎研究はやはり大学でやらなければいけないと思う。時間がかかっても使命と思って、大がかりなべきであると思って、私は、研究の生業(なりわい)だとか、あるいは自分たちが生きてきた道を、学生さんたちに話しておこうと思っています。彼らの思いを大切にしています。特に教養教育、共通教育、全学教育に関わることもあります。

ハツとする講義

「夢・化学」の講義

入学して間もない学生さんに、私にも経験があり、感激しましたが、はっと思うような講義で、はっと思うようなことを共通的なものとして持たせてあげたい。これは、自分の分野以外の先生からということが多いんです。私も経験からして理工系の自分の分野は、ずっと一体化して学部までくるものですか、大変お世話になりましたし、間違いなく重要な基礎に



専門性ととともに、アンテナを広げて 幅広い知識をあわせもつT字型人間に。

なつて連続してはいますが、分野が違ふ先生の講義は、ものすごく鮮明に記憶に残っています。

そういう点で、私たちに

「夢・化学」という授業があります。二年生の方への講義です。オムニバスのですが、私も講義をして、それでその方々がレポートを書いてくれます。文系の学生さんもたくさん受けてくれる。その人たちからの授業を受けた感想やレポートは、私たちにも参考になる。レポートですから少しはお世辞もあるんでしょうが、「いやあ、こんなのは初めて知った」という。学問というのはまずそこからだと思います。私が研究で涙を流したのと同じで、はつとするような感激を早いうちに共有させてあげたい。学生一人ひとりが良い個性を持っていると思うが故に、その人たちの感性に訴えられるような場を設けてやる必要があると思います。みなさん苦労してやってくれているわけで、

今、それがまったく無いわけではないのですが、そういうことをよりいっそう大切にしてあげたいと思っております。

学生相談室の充実

それとともに、私もそうだったんですが、悩むときもありました。学生相談室があり、担当の方々は大変なご苦労をされてみえますが、対象者が多いし、一人ひとりの方への対応に時間がかかります。こんな複雑な時代ですから、ここはもつと強化していきたいと思っております。担当の先生方はすごくよくやっておられます。しかし、訪れる学生も多く、待たなければならぬ。本来ならまず身近な教官の人達が声をかけてあげるのが一番いいのですが、身近な教官には言い辛いこともあるでしょう。それはいいんです。だとしたら大学として、せつかく入学してくれた人々たちですから、悩

む時は悩んで、でもある段階になったら、いろいろな経験を話したりして、自分たちの気持ちにまた盛り上がってくるような環境を作つてあげたいと思っております。

研究科長のところには、時々中途退学される方の書類がきます。家庭の事情とか、自己の都合とか、進路を考へるためとかいろいろ理由が書いてあります。私は背景がいろいろ分かる。残念ですね。「どうしたの?」って私は一人ひとりに聞きたい。学生さんに悩みがあることは分かっていますから、良い環境、良いコミュニティを作つてあげたいと思つています。

教官、事務の関係の方々、技術職員の方々、それから学生さんがいてはじめて大学のコミュニティが成り立つわけです。法人化になるうが、研究科が変わるうが、外的にどう変わるうが、少なくとも大学の本務は変

わりません。私はそう思つています。

大学院生は、
T字型と同時に横を広げて

加藤 大学院生についてはいかがですか。

平野 学生さんという意味では一人ひとりが重要な人ですし、それぞれの個性はより大事にしたい。ただ、特に私どもの研究科は、大学院を重点化していますが、しかし、優れた学部教育なくしては大学院の教育というのはありません。学部で修了される方も含めて、きちんと社会で活躍してもらおうと、いろいろな体制をとつています。

大学院の方については、より専門性を深めていくとともに、もう少し、先ほど言ったT字型ですが、同時に工学においては横を広げてもらいたいと思つています。というのは、企業に行けば単独・個人である研究をしたり、ある事業所で仕事する事はほとんどありません。目的を達成するためにチームを組んで動くわけです。チームのメンバーと共通の目的意識を持ち、

他の分野においても議論が出来る知識を持っていてもらいたい。このことを大学院の学生さんについては心に留めてもらいたい。

工学研究科、四つの強化

工学研究科では、今からさらにこの四つは強化したいと準備をしております。一つは労働安全衛生の問題。それから知的財産です。これは今後社会において、リーダーになっていただく方を育てる大学院においては、さらに学部教育にそれを入れながら、大事にしていきたいと思っております。学生さんもそのつもりで学んでもらいたい。やはり総合力と言いますか、応用力を身につけてもらいたい。そして同時に社会の重要な一員であるというつもりで。

いま社会ではいろいろな企業で事故が起こっていますが、卒業生が中枢として責任ある立場でいる事業所で事故を起こさないように、そう思っています。大学で学んだことを思い起こし、社会の中に自分があるんだという謙虚な気持ちでいてもら

いたいと思っております。私たちはそういう教育をしなければいけない。しているつもりなんです。もう少しそれを詰めていく必要があると思っております。去年四月、研究科長に就任した時、この点からの教育の強化について言いました。今後は、非常勤講師の枠も入れながら、そういう形で教育を詰めていきたいと思っております。

加藤 それでは生協へのアドバイスをお願いします。

平野 私も学生時代から生協にお世話になっております。生協は、大学の中のユニニティを一体になって一緒に動いていく重要なところだと私は思っております。同時に、食事をするところ、本を買うところというだけ

ではなくて、「共通のプラザ」という意識で見てくださっていただきました。こういうものは数年で終わってはだめです。賞とかいうのはやはり、長く永続的に行ってこそ価値が出てきます。そういう面で基金を入れてくださっているのは大変ありがたいと思っておりますし、生協の方々のご理解は非常に大きいと思っております。

同時に今年度から、生協の方々のご理解のおかげで、学生さんを顕彰する制度を作ったいただきました。こういうものは数年で終わってはだめです。賞とかいうのはやはり、長く永続的に行ってこそ価値が出てきます。そういう面で基金を入れてくださっているのは大変ありがたいと思っておりますし、生協の方々のご理解は非常に大きいと思っております。

今度IB電子情報館に作っていただくサロン（IBカフェ）もそうですが、あのようなところを基にしながら、ユニバーシティとしての交流的なプラザの役割をする所で、ほっとするよ

うな憩いと文化を醸し出せたらいいんじゃないかなと思っております。

大学は法人になるわけですから、そういうような機能は生協でなくてもいいんじゃないのという意見もあるかもしれません。これはそれぞれの立場で、変な意味での利益相反にならない

ような形で、必要などころは住み分けをする。これは当たり前です。

生協は

学生の学びと実践の場

生協は、学生さんの活躍の場も含めながら、あるいは学生さんがそこでのいろんなことを学ぶ、社会生活を学ぶ、そういう一種の実践の場でもあると思います。それを、私の言葉で「プラザ」と言ったのです。大学の中で、そういう位置付けをされた機関というのは必要だと思えます。だからユニニティとしての機能を、大学と一緒に担っていただけるのも生協の役割の一つじゃないかと思えます。そのようなメカニズム、機能を持っていただけたらよいと思います。

それがなくなれば、あそここの場所を提供します、ここで入札です、これだけの面積でどうします、ということだけで動くことになりません。それだけではなく、いい意味での連帯感をもつて動くことが可能であるかということも考えていくことが大事だと思っております。

開かれた大学。文化の薫る大学。これは私の夢です。その基盤、礎を皆様と築きたい。

私は、良い意味での連携ということも、あつて然るべきかなあと思つています。ただ、常に利益相反的なところで、なぜ生協とだけか、ということについては、社会に対する説明責任はある。たまたまそこに生協の経営であるということについては、

社会に説明できるような形は取らなければならぬ。こう思つていきます。これは私たちの教育研究もまったく同じでして、教育研究に対して、やっぱり社会に説明できるようにしておく。これは当たり前のことです。良い意味での緊迫感をお互いに持ちながら、良い運営形態がとれるのが一番いいと思つていきます。

励みたい。外から見えてかつこいいキャッチフレーズはないかもしれません。私はナノも落としてみましたし、超電導も見落としましたし、そういう泥臭い人間ですからかつこよくは言えないんですけれど、大学というのは、教育研究を基盤として、将来に生きていく苗床はきちつと強化すべきだと思つています。これは大学である限り、社会環境が変わろうとも重要なことだと思つています。ただ私にも大学の執行部にも、外の方、社会の方に理解を

いただくような、説明責任があると思つていきます。これは工学研究科もまったく同じです。

今井 地下鉄も開通して、さらに一般の方とか市民の方との交流も強くなりますね。私たち生協も、名古屋大学がこれからどういう方向に向かつていくのか理解をし、それを福利厚生という面やいろいろな面で支えていきたいと思つています。

先生が言われたような憩いの場、落ち着ける場所が無いとは

いいませんが、もつと欲しい。学生、教職員と一緒に何かつて何か話したり、飲んだりできる場所を少しずつでも増やしていくために、私たちも何かお役に立てればと思つていきます。

文化の薫る大学へ

古い町の中にあるところ、イギリスやイタリア、フランスもそうです。明らかに大学だという雰囲気ですね。はつと思つてくらしい歴史的な雰囲気、あるいは文化の薫りがします。で、ここをちよつと覗いてみたいと思つていいですかつて言うのと、どうぞつて言われる。

平野 まさにそう思つてます。12月に名古屋大学まで地下鉄が開通して、私は嬉しく思つていきます。私はよくキャンパスを歩きます。そうすると、年配の方々によく会います。ちよつとリュックを持ったりしてね。これは私、非常に良い、嬉しいことだと思つています。もともとうちは柵の無い塀のない大学ですから、開かれた大学です。とはいえずに入つたら大学としての文化が薫るようにしたい。これを何とかしたいと思つていきます。ヨーロッパ、アメリカでも町の大学に、ふつと入つたらどの建物に入つても、入れればやはり大学です。ヨーロッパは特にそうです。

名大の建物はヨーロッパの大学ほど古くはありませんが、そういう環境はつくりたいと思つていきます。だからそこでちよつとサロンに寄つて、お茶を一杯飲んで、そこでお茶飲んでる大学の方とね、少し時間がありそうだったからその方とお話して、そうですかと言つて、また地下鉄でもどつていただけるような。そういうのです。

それからこの前もテレビ局の方をご案内しましたが、そのガラス張りの建物（新しいIB電子情報館）の会議室ね。あそこを、市民講座とか、いろいろなことに解放して大いに使つてもらいたいなと思つていきます。例えば金曜日の夕方のこういう時間は、どなたかがサロンみたいになつていきますね。そうすると地下鉄を降りて、ひよつとそこへ座つて、お話が聞ける。オープン



私は「ナノ」も落としてましたし、超電導も見落としてた泥臭い人間です。かつこよくは言えませんが、教育研究を基盤として、将来に生きていく苗床はきちつと強化すべきだと思います。

で、一步入ったら、そういう学問の場に、どなたでも触れていただいて、喉が渴いたなと思ったり、すぐ近くにサロンがあると。そこへ行ったらまた、どなたか時間のある先生が研究の話をしていて、横でコーヒーを飲みながら小耳にはさんだと。そういう場をに徐々に作っていきたいと思います。治安の問題もありますが、事故の起こらないような文化の場をしたい、これは私の夢です。その基盤、礎を皆様と築いて次の総長へ渡したいと思います。そういうところで生協さんが、気持ちの一つにして協

力したいということだったら私は大変嬉しい。大学もそういう場所を作る努力をしていくつもりです。
今井 夢のある話を聞かせていただきました。実現を期待しています。
平野 学生さんにとっても大事な場所ですからね。若い時の。今井 これからは大学が選ばれた時代になっていくと言われていきます。これからは「名古屋大学だから行きたい」「こういう先生がいるから行きたい」というような魅力のある大学に、私どももしたいなあと思っ

ています。
平野 いやあ私も全く同感ですね。そうしたいと思っています。
今井 お役に立てればと思っ

災害時はアマチュア無線で

加藤 先日、生協の激甚災害への取り組みで、災害対策室の先生方にいろいろご協力いただきました。災害対策室の先生方は、市民とか一般の方にも協力を惜しまず活動されていらつしやいます。様々な分野でそういう協力ができたらいいなあと思っ

す。
平野 大学が社会に貢献すべきことは多いですよ。

今は携帯電話が流行っていますが、神戸の震災のような災害だったら二時間くらいでパンクです。正月の時、大晦日に全然働かないのと同じですね。それが無線なら通じるんです。私が学生の時につくったアマチュア無線のクラブの方々にも前から言っていました。自分たちで金を出し、大学に許可をもらって山の上に局を設置し、災害の時にどこからでも無線で通じるようにシステムづくりをしよう

とね。
そんなふうに学生さんに中心になってやれることがいっぱいあるんです。学生たちに、僕もポケットマネー出すからやれよと激励しておきました。無線は自分たちで楽しむだけではなくて、社会に貢献できるんだからって。

名古屋大学の無線のクラブは、私が学生の頃に作ったもので、その後も応援してきました。この間、学生さんが万年筆を贈ってくれました。先生、これ使ってくださいって。万年筆には私のコールサインJ A 2 A X G が刻んでありましてね、僕は涙もろいものですから……。

ぜひまた一緒にやりましょう。
今井 よろしくお願いします。

加藤 先生、本当にありがとうございます。

平野 大切なことがあまりお話しできなかったですね。聞かれたことあまりうまくしゃべれてないし。また来てくださいね。

加藤 ありがとうございます。
(インタビューは2月2日、聞き手は、名大生協・今井専務理事、箕浦常務理事(情文)、皆川常任理事(工)、加藤理事会室長。見出しおよび文章の責任は「かけはし」編集委員会にあります)

鈴鹿・御在所岳ハイキング

—アカヤシオ・ハルリンドウ・

ショウジョウバカマを尋ねて—

足下にはツクシのような可憐なハルリンドウが青く輝き、落葉樹の中ではピンクの蝶々が舞うようにアカヤシオの花が咲く。鈴鹿山脈・御在所の春はそんな景色に包まれます。まぶしい春の日射しを浴びて、御在所岳にあなたも登ってみませんか。帰りには、天下の名湯にゆっくり浸り汗を流して帰ります。そんなチョッピリ欲張りな春山へご一緒しませんか。



日 程：2004年4月29日（祝日）

行 き 先：**御在所岳** (1,211m)

集合場所・時間：豊田講堂前 **7時**

医学部正門 **7時30分**

集合時間5分後に出発します。

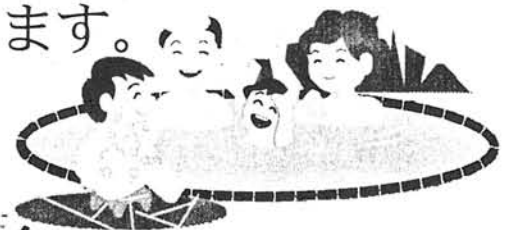
参 加 費：**1,000円**、小学生**500円**

乗用車に分乗していきます。

申込・問い合わせ先：

kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

企 画：名大生協教職員委員会



イラク戦争開戦1周年学習講演会

「劣化ウラン爆弾」、

「原発燃料」、「原爆」でいわれる
「劣化ウラン」、「濃縮ウラン」とは？

～ 時の言葉はウランアイソトープ「U-235」の混合
比が天然ウランと違うことから来る呼称 ～

講師：玉置昌義（工学研究科原子学工学専攻助教授）

米英によるイラク開戦から一年がたとうとしています。
イラク戦争の口実であった「大量破壊兵器」は根も葉もない言いがかりであり、この戦争が国際法上許されないものであることが明白となりつつあるなかで、戦争によって混乱がもたらされたイラクでは何の責任もない市民が大きな困難に直面しています。そのひとつが「劣化ウラン弾」による被爆です。

「劣化ウラン弾」は湾岸戦争で初めて使われ、戦場の兵士にも放射能による障害が発生するなど、大きな問題になっていたものです。

米英は戦争の大義がないばかりか、放射性物質をまき散らす危険性の高い「劣化ウラン弾」をイラクで再び使用したことは、人類の歴史に大きな汚点を残すものとなるでしょう。

今回は、この「劣化ウラン弾」による放射能被爆についての講演を、イラク戦争1周年の取り組みとして企画しました。

日時：2004年3月19日（金）12時10分～

場所：名古屋大学職員組合書記局
（工学部2号館北館3階）

参加費：無料

食事：軽食を用意しています。（会場カンパで）

申込・問い合わせ先：

kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp（教職員委員会）

nuufs@nuufs.org（名大職組）

企画：名古屋大学平和憲章委員会

2004年度教職員委員会方針合宿の報告

大学と共に歩む生協を目標して 組織活動と経営視点も重点に あなたも生協運営に 教職員委員になりませんか

3月6～7日にかけて、2004年度上期の委員会方針合宿を吉良温泉「丸十」で開催した。今回の合宿は国立大学法人化に伴い大学と共に生協で何ができるのか、どんなサポートが出来るのか、生協の役割について

なども話し合われた。また、今年度で名古屋大学を退職される中條氏と矢田氏の送別も兼ねて行われた。両氏は30年以上の長きにわたって委員会活動を支えてこられ、その功績は大きい。残された我々は先達の意思を受け継ぎさらなる発展をさせるためにも活躍の決意を新たにしたい。

教職員委員会の上期活動方針

組織活動

- 加入・増資キャンペーン
総代会(5月28日)までを強化月間とし、加入および基本出資金(2万円)まで増資された方には食堂利用券などを特典としたキャンペーンの実施。
- 新入教職員歓迎生協ガイド
今年も名古屋大学に就職または赴任された教職員の方々を対象にして生協の紹介、特

別講演会、歓迎パーティーなどを5月21日に開催します。

総代の選出

総代会に向けて各部局や建物毎に総代の選出に努めます。

総代会議

総代会の報告、生協からのお知らせ、委員会からの案内、組合員からの要望などを話し合うために年4回開催します。

利用者懇談会

各建物毎で開催します。開催希望がありましたらご連絡下さい。

生協運動学習会

各組織委員、生協職員を対象に生協の歴史と役割を学びます。(6月下旬～7月)

機関紙活動

かけはしを奇数月に発行し、研究科長インタビューを継続して掲載します。生協からの情報と組合員の交流・情報誌となるよう努めます。

コーポカルチャーセンター企画

- 春の御在所岳ハイキング(4月29日)
- 新入教職員歓迎生協ガイド
ンス講演(5月12日)

○瑞浪地下壕見学と化石採り親子ツアー(8月7日)

○歌声喫茶(未定)

○文化講演会(検討課題)

平和・環境活動

○イラク開戦1周年学習講演会を開催します。(3月19日)

○名大祭有志企画として憲章委員会でも二平和資料館を開催します。(6月5～6日)

○平和憲章憲章エッセイの募集(検討課題)

○名古屋市内および名大にまつわる戦跡めぐり(検討課題)

○エコツアーとして「菜の花エコプロジェクト」「風力発電」などの見学を実施します。

生協まつり(6月15日～18日)

○献血(16・17日予定)

○ビデオ上映会(16日)

○ピアガーデン(17日)

工場・産地見学

○COPPだしパック工場見学と藤前千湯見学(6月12日)

地域センター・全国との連帯活動

○全国教職員セミナー(8月24～25日)

と多彩な企画を開催しますので、ご期待下さい。

吉良温泉「丸十」にて



笠木透と共に過ごる平和と私達の未来
 ~平和と学問の自由と私たちの未来~



名古屋大学平和憲章17周年記念企画 笠木透とともに過ごす平和憲章の夕べ

2月5日、18時から名古屋大学平和憲章制定17周年記念企画「笠木透とともに過ごす平和憲章の夕べ」が平和憲章委員会主催で開催された。18時からは第一部として名古屋大学職員合唱

団9名による演奏が行われた。第2部で笠木透氏と一緒に歌う歌の練習も行った。続いて登場した植田健男名古屋大学職員組合委員長は4月からスタートする国立大学の法人化についての問題点と課題を提起した。

第2部は19時から笠木透ONステージがスタート。「私に人生と言えるものがあるなら」「あなたが夜明けをつげる子どもたち」と骨太の笠木氏の声は学生時代に仲間と歌った青春時代を思い起こすものであった。

歌もさることながら笠木氏の戦争と平和についての思いも同時に語られ平和憲章企画に相応しい内容となった。第1部で練習した「私の子どもたちへ」を会場に参加者も一緒に歌って歌い、明日への原動力となるエネルギーを頂くことのできた夕べとなった。(みの)

安堵感と充実感のある 笠木透の声に励まされ

笠木透の声は、土と風に鍛えられた男のものだった。力強く、奥深く、そして慈愛に満ちたそのうたごえは、僕の胸を揺さぶり、そして励ましてくれた。父親のような...という表現が相応しいであろうか。底の方から押し上げられるような音程に、心地よい安堵感と充実感を覚えた。

何処でも聞こえてくるような声で、それでいて笠木透でなくてはならない声に、多くの人々を魅了し励まして止まない一本の精神がある。僕は何かかのCDを購入し、帰宅後聞いてみた。何時までも何回でも繰り返し流しながら過ごしている、どこかうきうきする自分に気づく。

「私の子供達へ」は子供が世

話になった「学童保育」のテーマソングである。この歌に込められた沢山の熱い思いを回想しながら、「歌唱指導」とはおこがましいが、気持ちよく歌った。返ってくる会場の人々のうたごえにほろ酔い気分のような気持ちよさが僕の体と心を満たしてくれた。

悪意に満ちた社会に辟易し、身も心もすり減らされる毎日。平和憲法の読み方も知らない首相をもった恥ずかしさが走る。情けない現実には打ちのめされる日々が続いても、いややまだまだ捨てたもんじゃあないぞ、俺たちは。今に見てろよ、バカ首相！、きつと一矢酬いてみせようぞ、と。あと片付けをしながら、次はなにをやるのかと考える自分が、そこにいた。(K)

八幡平山頂展望台から



八幡平の場所

陸奥（みちのく）盛岡の北西方向、岩手県と秋田県の県境を成す裏岩手山縦走コース上の北端にある。東に安比（あつぴ）高原を南東に岩手山を南西に田沢湖高原、乳頭山などを従え、後生掛、松川、乳頭、滝ノ上、網張などの名湯秘湯を包容する大自然の保養地である。四方、八方が広大な湿原、高原、池沼、山岳

八幡平入り口にて――背景は岩手山



という大自然の中であるから、季節と時間とのバランスで目的を絞れば満足できる旅が実現する。思い立って私も1996年9月11日からの夏期休暇の3連休を使いこの温泉地に出かけた。いつもは一人で山に出かけるので、久しぶりに妻を誘っての温泉旅行である。とはいっても百名山に数えられている八幡平と岩手山に登る日程を忍ばせ、

「行ってみて無理なら君は山麓の温泉でゆっくりすればいいよ。」との納得づくめの旅である。

八幡平山頂は道路脇

かくして、名古屋発7時20分の「ひかり202号」で東京へ、6分の乗り換えで「やまびこ37号」は盛岡に12時38分に到着。駅前からは岩手県北交通のバスで岩手山を半周する

ように南東から東へ、安比（あつぴ）高原を経由して岩手山の北側に回り込む。秋田県との境を成す頂稜部に八幡平頂上はある。駅からはアシピーテラインを経由して1時間45分ほどのバスの旅である。八幡平入り口のバス停留所の脇に荷物を置いて、貴重品のみをサブリュックに入れ、鏡沼やメガネ沼など

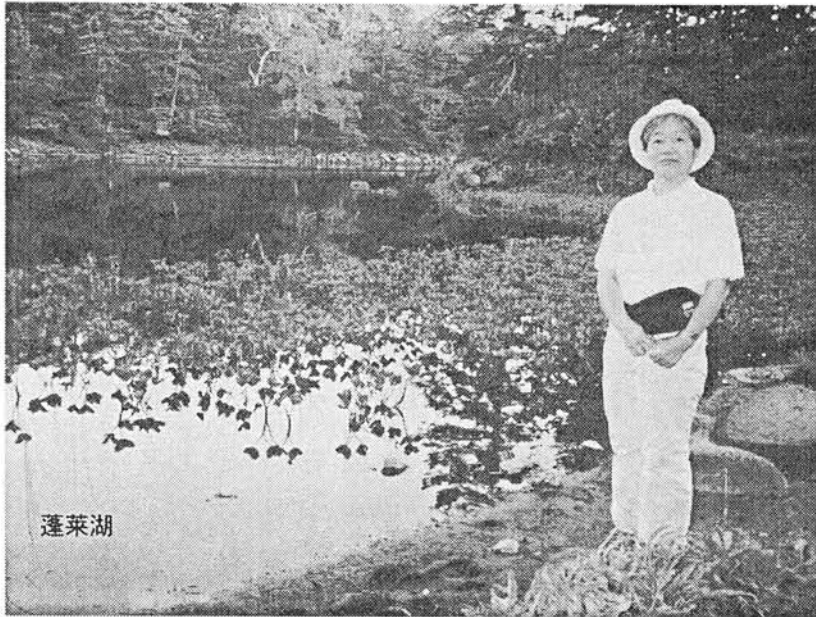
山頂の池



を一時間ほどかけて散策する。頂稜部は源太森や八幡沼を従え、山頂部には展望台が設けてあって360度の景観が欲しいままである。中でも明日から南に縦走し岩手山に続く裏岩手縦走コースを見渡し、西南方向に乳頭、秋田駒や鳥海、北に八甲田や岩木山、そして東に岩手山の陰に早池峰の山影を望むことができる。

蓬萊荘

山頂から南に道路を渡って2kmほ緩やかに下ったところに蓬萊湖がある。そのほとりに宿を求め、16時20分に到着するも夕食にはまだ時間があるので、湖の周囲を散策する。静かな樹林に囲まれた湖周歩道を一周する。今日は未だ山に登ったとい



蓬萊湖

うよりは、ほとんど水平移動であり、荷物も背負っていない。唯一、八幡平のバス停から荷物を背負って、この蓬萊荘まで20分ほどを歩いた程度である。利用客の少ない宿は、規模は大きいがかなり古びている。それでも庭の露天掘りの温泉は、素人目にも泉質の良いことが解る。温度といい、膚触りといい、天然そのものである。さすが名湯秘湯の宝庫である。直ぐ近くには地熱発電所もある。

岩手山への縦走

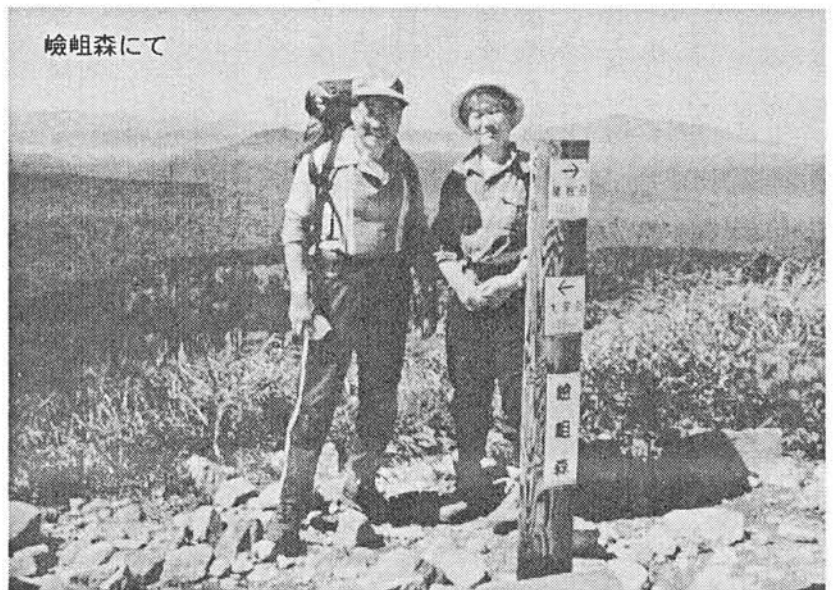
明けて12日は快晴である。単独山行なら朝は5時頃には出発するのであるが、今日は宿での朝食をいただいで7時30分に出発である。最初は45分歩いてモッコ岳を通過したところで10分の休憩。諸檜岳に9時15分到着。灌木の茂る稜線は、アップダウンの少ない単調な道である。そこ

で2度目の休憩を10分取る。10時20分前諸檜岳との中間の鞍部手前で3度目の休憩を20分取る。お腹が空いたのでここではおむすびを食べる。前諸檜岳へは20分で到着したので通過し、さらに嶮岨森へは15分で到着したので、ここも通過する。大深岳の手前に避難小屋があり、水場も近くにある。そこで10分の4度目の休憩を取る。11時40分出発。12時15分大深岳に到着、25分出発。

鞍部にて昼食

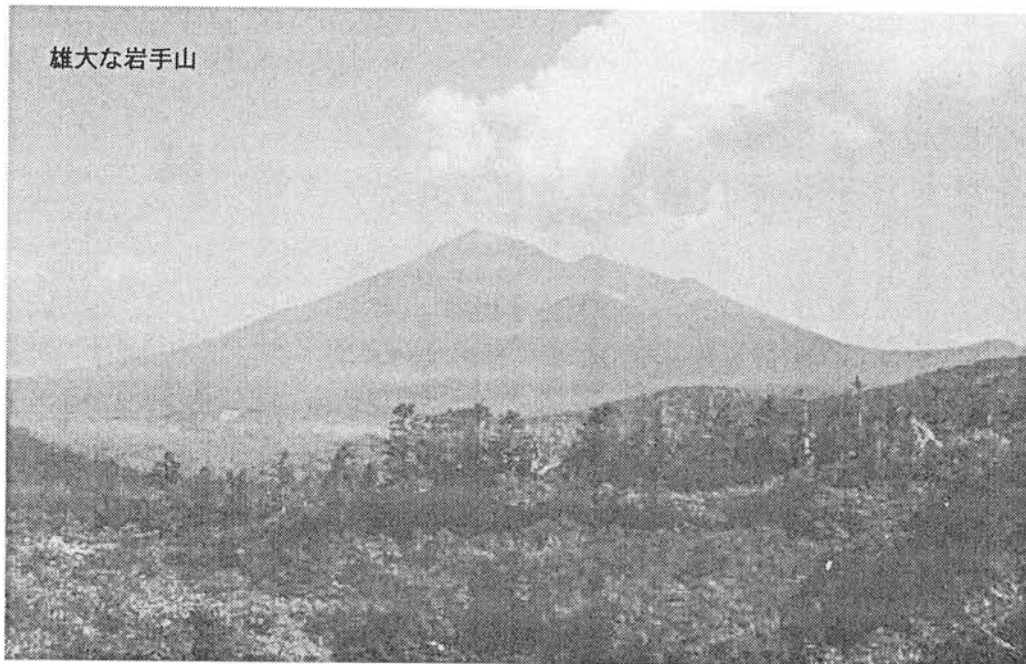
13時05分、小モッコ山への鞍部にて昼食にする。20分に出発。14時小モッコ山に到着、10分の休憩の後出発。ウイークデイなので行き交う人は数人程度の静かな山行である。起伏も緩やかだが、道のりが長い。三ツ石山に

嶮岨森にて



15時に到着する。山頂には大きな岩があり、眺望がよい。10分の休憩の後に出発。大松倉山に16時到着。10分の休憩の後出発するも犬倉分岐で網張に下らなければならぬが、17時15分になっていたので、観光用リフトは止まっていた。飲料水も底をついていたので、リフト乗り場まで下って自販機でジュースを買ってくる。17時30分、やむな

雄大な岩手山



く網張温泉に徒歩で下ることにする。『秋の陽は釣瓶落とし』である。スキー場の中の緑の草原をジグザクに休暇村の明かりを指して1時間の下りの連続で

ある。結局、暗がりのこの急勾配の下り坂で妻は足を痛めてしまった。

網張の温泉に泊まる

網張温泉の休暇村は、施設も立派でその上温泉は、本物の温泉で疲れを癒すに十分である。浴室は大きな梁が懸かる木造の温泉で、湯気が天井からポタリ、ポタリと落ちてきて、今日の疲れを忘れさせてくれる。夕食にビールが旨い。それほど飲んべえでなくても、一日の疲れと汗を流して飲むアルコールは、温泉と共に疲れを吹き飛ばしてくれる。岩手山を南西から登る登山基地でもある。

小岩井農場

明けて13日、妻は昨日の強行軍がたつて、足を痛めたという

ので小岩井牧場の見学に変更する。私は、岩手山の登頂をあきらめ小岩井の牧場に行きす。これがまた良かった。小岩井の歴史を知る良い機会になった。農業や酪農、林業や観光など多角経営を成功させる経営手腕に脱帽した。広大な原野を見事に手入れした一大観光農場、牧場、遊園地である。厳しい北の大地で忙しくも楽しく働く人々に接することができた。雄大な岩手山を背景にかくも素晴らしい農園が経営されていることに再び驚かされた。ゆっくりと見学して「いいこの村いいわ」に向かう。

いいこの村岩手

13日に岩手山に登っていたら、この北麓の宿に下山する予定だったので予約を入れてい



小岩井牧場にて

た。小岩井からはいったん盛岡に出て、花輪線経由で大更駅からタクシーで宿に入る。公共の宿は施設も食事申し分がない。なによりも温泉が大好き人間なので岩手の旅は、主目的の岩手山こそ登れなかったが、その小岩井農場との出会いと本物の温泉が十分カバーしてくれた。

ドリム

名古屋大学情報科学研究科 広木詔三

いつの年も梅の咲く頃には厳しい冬も去り、日増しに日差しが強まっていく。梅は桜と対照的に開花期が長く、早いものは二月の初旬には咲き始めるのに、三月一日になってもまだ散らずに頑張っているものもある。ウメは帰化植物で、中国原産である。保育者の樹木図鑑によると、七百年前にはすでに日本に渡来していたとある。当時は中国の文化が大いに輸入され、漢字もすでに伝来している。漢字で書かれた万葉集には桜の花は現れず、梅の花の詠まれた歌が多い。花を愛でる文化も文字とともに伝来したのであろう。

東海地方には、人間が大陸と行き来する以前に大陸から渡ってきたと考えられる植物も多い。ヒトツバタゴは、岐阜県の東濃地域、対馬、中国大陸と大きく飛び離れて分布している。すでに紹介したモンゴリナラも中国から分布域を広げてきたものの一つである。ただ、山崎早江子さんの研究では、東海地方のモンゴリナラは遺伝的には日本のミズナラに近いという結果が得られている。私の予想とは異なるが事実は事実として受け止めねばならない。山崎さんは、修士論文の中で、東海地方のモンゴリナラがミズナラ起源であろうと推測している。このことは誤りではない。しかし、だからと言って、大陸起源であることを否定できないと私は推測している。自然科学の醍醐味は、新しい事実の発見も大きいですが、より深まった謎が次第に解けてゆくときの喜びもまた格別で、それは

言葉では言い尽くせない。

一昨年(二〇〇二年)の七月十日付けのネイチャーに、中央アフリカのチャドでヒトの祖先の化石が発見されたという記事が載った。中日新聞にも大きく頭骨の写真入りで載った。私はこの記事に大きな疑問を抱いた。サヘラントロプス属というこの新属の発見は、これまで考えられていたヒトの祖先が東アフリカで起源したという説を覆すものとして受け止められた。実は一九九五年には、同じ中央アフリカのチャドでアウストラロピテクスの一種がすでに見いだされていたのである。西アフリカと東アフリカを隔てる大地溝帯がチンパンジーとヒトの祖先を分離させたという仮説が危機に見舞われたのである。

しかし、チャドで見いだされたアウストラロピテクスは、東アフリカで起源した後に西アフリカまで進出したと考えれば説明はつく。東アフリカで直立二足歩行を獲得したアウストラロピテクスが二千五百キロメートル離れたチャドまで分布域を拡

大したのに違いない。チャドのアウストラロピテクスは、あの有名なルーシーよりも時代があとなのだから。

それでは今から六、七百万年前のものと思われるサヘラントロプスはどうなのか。このサヘラントロプスはヒトの祖先でない可能性が高い。頭骨だけでは、犬歯がいかにヒトに似ているといても、直立二足歩行を裏付ける骨盤や足の化石が見いだされなければヒトの祖先とは判定出来ないのである。

話のもとに戻るが、東海地方には先のモンゴリナラをはじめ東海地方に固有のあるいは準固有の植物が豊富である。シデコブシはコブシから分化して東海地方の湿地にのみ分布するようになったと考えられている。私はこの問題を東海ラジオで話したことがある。

去年の夏、私は名古屋市内新栄にある東海ラジオのスタジオに向いた。名古屋大学リレー・セミナーの一つとして「東海地域の自然環境の特性」というテーマで話をするのである。ス

タジオに着くと、若くてとても美しい山崎聡子さんと、日比野君というアシスタントが私を出迎えてくれた。山崎さんは私の講義を受講したことがあるのだが私を覚えていないようだった。それもそのはず、彼女はアメリカに短期留学し、期末にレポートを提出したのみであつたから。

ディレクターを交え、前もつて送つておいたレジュメをもとに打ち合わせが始まる。私は話が下手なのでとても緊張する。彼らは仕事に慣れており、今日話をするシデコブシについてホームページから情報を引き出してくる。話す内容のおおすじが出来る、録音室に移る。テーブルとマイクだけが置いてある部屋に入ると、隣に録音装置がガラス越しに見える。

私の極度の緊張を前にして、気軽な雑談から入る。私はブナ科の専門家なので、どんぐりの絵の入った名刺を配った。娘がパソコンで作ってくれたものだ。可愛いどんぐりの写真を見て、笑いがスタジオ内を包んだ。

いよいよ本番でスタートだ。

山崎さんと日比野君の「お早うございます」というとても元気な声が響く。スムーズに会話の流れが、この「お早うございます」を何度繰り返したのか。ディレクターがその都度注意を与える。小さなミスはやり直せば済む。私の発音が悪く、聞き取りにくいときは、彼らが聞き直したり、繰り返したりしてくれる。

途中で、どうしても繋がらずついに、ディレクターも頭を抱えてしまった。たった二十五分なのに、話をもたないとも言う。長いこと中断して対策を練る。山崎さんに講演の経験はないのかとなじられてしまう。そう言えば最初に受けとった謝礼が三万円という今まで経験したことのない額であつたことに気づく。もう絶対絶命かという暗い雰囲気なが長く続く。

とにかく、東海丘陵要素という植物群は湿地が重要で、その湿地は過去に流れてきて堆積した砂礫層が隆起して、そこからわき出た地下水が湿地を涵養して、シデコブシが、と話を作る。

私たちは再びマイクに向かっ

た。今度は途中一度も途切れずオーケーが出た。それにしても山崎さんはプロだ。この話の下手な私から上手に話を引き出してくれた。終了後、私は大きな安堵を感じた。何と夕方の五時頃から始まり、スタジオを出たのは、夜の九時を大きく回つていた。もう、金輪際、ラジオでの出演は断ろう。

あとで、娘にテープを聞かせると、緊張しているのが分かると言う。

私は、これでも以前よりは度胸がついているつもりだ。生まれてこのかた、歌を歌つたことのない私が比較的最近、スナックでカラオケを歌うことが出来るようになったからでもある。えっちゃん、と呼ばれていた女性に誘われて、おそろおそろマイクを握つたのが最初だった。テレビ画面の文句をなぞればよい。デュエットで、女性が先にあるので、真似しやすい。歌い終わると、うまいと褒められた。商売上手のお世辞とわかっていても、そのひと言は人を安心させる。五十を過ぎてからの道楽は恐ろ

しい。家に帰り、布団に入っても、彼女の歌が耳から消えない日が続いた。

私が歌を歌うようになったのは家から比較的近いドリームというスナックであつた。その頃、私は毎日大きなストレスを感じる日が続いていた。それまで、私は酒を飲んでも人と話が出来ず、ストレスを解消することが出来ないたちだったのである。私が一昨年『里山の生態学』を出した頃には極度の疲労で、不整脈が頻発するようになった。でも不思議と、歌を歌うとストレスは消えた。だがしかし、その後ドリームに行っても、不整脈のためソファで寝ていることが多くなった。そこは、わが屋よりも居心地がよいのである。

五十半ばにして、生まれて初めて歌を歌うようになり、私はようやく普通の人間になれた。しかし、いつからだろう、ドリームに行かなくなつたのは、私はまた以前のように口数が少なくなった。私のこの遍歴は芥川の『杜子春』の主人公と似てなくもない。

大学格付け

こんな新聞記事を見た。大学を格付けする会社があるというのだ。そういえば、いろいろな一般企業の格付けをすることをよく聞く。日本政府の発行する国債なども格付けの対象になっている。これは、国の格付けと同じようなことだが、変な感じだ。

そうしたら、大学の格付けもそういう会社がやるようだ。大学の格付けと言うからには、その大学の教育内容や実績ということが中心になると思うのが普通だと思うが、さにあらず。その財務内容が対象だ。もちろん、財務内容は、その大学の実績と密接な関係にはあろうが、なんとまあ、あけすけでドライなことか。儲かっているかいないかだけが問題なのだ。こういう時代になったのだ。大学はまさに企業なのだ。企業は金儲けをしなればならない。しかし、大学で

やっていることは、金儲けに直接関係することも有れば、全く関係しないこともある。全く関係しないと云っても、直接関係しないだけで、回り回って人間生活の向上に役立つことは大切で、これは金には換算できない。

こんなことを言えば、「何をとぼけたことを」と無視されるか、バカにされるのがオチかも知れない。しかし、そうあつてはならないと思う。そうならないように、イヤでも慎ましきなどは捨て去り、自らの研究内容について自己宣伝をして、回り回ってでも人間生活に役立ち、お金に換算してでも世の耳目を引かなければならないのだろう。嫌な世の中になったが、それを怠っていると、どんどん悪い方に引きずり込まれていくようである。「茶色い朝」を迎えないように、みんなが仕方ないと思

わず、世の中のおかしな動きを監視し、封じ込めていかなければならない。

この報道が、大学だつてそういう格付けをするのが当然であるかのごとき様子であったのが気がかりだ。我々はなかなかマ

教科書またミス連発

こんな記事が新聞に載り、ラジオやテレビでも鬼の首でも取つたような騒ぎ。指摘された誤りはまことに多彩というか、面白いと言つては失礼だが、初歩的な校正ミスに属するものから、ひよつとするとワープロの変換ミスかと思われるようなものまである。どうしてそんな誤りをと思うようなもの、どうして間違つたのか考えてみると面白いのもある。確かに、最終的責任は出版社にあるだろう。ただ、出版社を袋たたきにしてそれで済むことなのか。本当のところはなかなか分からないけ

スコミに太刀打ちできないが、それに携わる人々に少しでも世の中のおかしな動きに敏感になるようにして貰うようにし向ける責任が有ろう。

(T)

れども、この辺にもお役人の自己防衛本能みたいなものが見え隠れする。どうなのだろう。マスコミもうすうすは知っているのだろう。その本当の原因究明をすべきだと思う。

本当の本当のことがはつきりしないから、余りはつきり言えないが、いわゆる教科書検定にも関わっているとしか思えない。検定官はまさに重箱の隅までつづいて、徹底的に誤り無きことを期する。それでも誤りがあるのは一体何故だろう。この辺に真相があるのではないか。

(T)

グエン・カオ・キ 元大統領

この名前を知っている人はもう余りないかも知れないが、今年になって2回新聞で見た。亡命先のアメリカから29年ぶりにベトナムホーチミン市に戻って「ずいぶん変わった。街並みが驚くほど変わった」と言い、元護衛兵だった男性と抱き合っている写真が載っていた。もと見た覚えのある写真と余り変わっていないなかった。その反共の闘志である彼を今のベトナムは暖かく迎えたとは書いてなかったが、行動の制限はなく、旧正月を親類と一緒に過ごすために帰った彼を一般市民も「過去を忘れ一緒に前に進むときだ」と語っていたというのが印象的だった。恨みは恨みなぎによって初めて晴らされる、という

のを地に行くことで、今のテロと報復の応酬という悪循環を断ち切るにはこれしかないと思つた。かの將軍グエン・カオ・キ氏の行状を覚えていてる身には感慨深かった。

それと並んで載っていたカン

ボジアの組閣も出来ないという新聞報道に今昔の感を抱いたのは私一人ではあるまい。当時カンボジアはシアヌーク国王のもとで平和だった。ところが、彼の留守を狙つてのクーデターに始まった泥沼、呪われたポル・ポトなる不可解な人物のため多くの有能な民が大虐殺された。苦難の後のカンボジアにはまだ真の平和、国土の再建の時はまだ来ないのか。争っているときではないと思うのだが。

(T)

マーケット

私はマーケットと聞くと、公設市場とか卸売市場、その種類の流通場面を思い起こす。ところが、この頃ラジオ・テレビで「マーケットの状況をお知らせします」といえば、日本や世界各地

の株式市況や為替市場のことを指しており、そのことに特化されてしまったみたいだ。言葉の使い方は変化するものだから、このごろの使い方はこうなったのだといわれれば致し方ない。

この使い方は本来の意味なのかどうか。

国語辞典では、「日用品・食品などを商う店が並んでいる場所や建物。市場。販路。」などである。私の感覚とびつたりだ。

英語辞書を見ても、やはり同じ事。3番目くらいに、「売買・取引・市況・市価」などと出てくる。

しかし、現代用語の基礎知識などでは、「証券・マーケット・国際金融」などと纏められているところを見ると、どうやら、今のラジオ・テレビのような使い方、この語の用法の中心が移ってきているのだろう。

それはそうと、実体経済とは違う次元での為替取引が、少し前、アジアの経済を大混乱に陥れたことを忘れてはならない。そういう意味で、今台頭してきているという固定相場制復帰もいいのかも知れない。そうすると、為替取引でうまみを占めた連中が黙ってはいまいが。

(T)

北京興隆往来

理学部 河合利秀

北京と興隆（シンロン）天文台往復の道中は非常に興味深いものであり、現在中国の国情を知る格好の機会となった。

11名定員のマイクロボスをチャーターし、北京国家天文台から高速道路を経由して興隆天文台に向かったが、その車窓に展開する風景や人々の姿は、日本の高度経済成長時代初期から爛熟期までを、片道の3〜4時間の道中に凝縮した記録映画を見ているようであった。

かつて、中国の街の主役は自転車とバイクであったが、今では乗用車が主役の座にある。

そのなかでも、北京市内の道路はタクシーが多い。ワーゲンやシトロエンの欧州製小型車はほとんどがタクシーであるといつても差し支えない。ベンツやトヨタの高級車を物凄くスピードで我が物顔に運転するのは高級官僚であろうか。そんな中を、白い煙をはいている三輪トラックが器用に隙間を縫っていく様子にはハラハラする。よ

く事故があると聞いているが、日本のような補償は何もない。警察の取り締まりはほとんどないそうなので、よくぞまあこれで交通安全が保たれているものだと感心する。リスクが大きいだけに、神業的運転技術が必要なのだろう。僕は海外でよく車を運転するが、北京では運転する自信がない。

路線バスや長距離バスも多い。バスが二重駐車して道を狭くしているところもあって、本当に時刻表が守られているかどうか怪しいものだが、その点を現地の人に聞くのを忘れてしまった。

高速道路ではトレーラーや大型トラック、長距離バスの交通量が多くなる。平坦な土地であるが故に、何処までもまっすぐに伸びる高速道路網は、爽快なドライブが約束されているようだ。

高速道路沿いに展開する車窓は、オリンピック関連施設の建設ラッシュで、どこもかしこも工事だらけである。北京の街を

形成していた胡同（フートン）はもうここにはない。

北京から高速道路に乗ってしばらく進むと、スキー場の看板がみえてきた。最近北京の若者の間で大きなブームとなっているのがスキーである。まだオフシーズンなので看板が出ているだけであるが、シーズンを迎えるとうなるだろうか。そういえば、昨年中国から研修に来ていた若い技術者2名にスキーを教えた。彼らにとってスキーは贅沢の極みであろう。たくさん写真を撮っていたことを思いだす。もし機会があれば、一度北京近郊のスキー場で、彼らと一緒に滑ってみたいものだ。

高速道路から一般道に降りて幹線道路をしばらく行くと、衛星都市が現れる。

ここでは、「ろば」が牽く荷馬車の鼻先を、リヤカーと自転車とをくみ合わせたような三輪自転車がゆっくり進む。それをエンジン付き三輪自転車ともいうべき「バタバタ」が白煙をあげながら追い越していく。そして、ボンネットトラックがクラクションを鳴らしながら三輪車を追う風景は、1960年代の日

本そのものではないかと思う。しかし同時に、路線バスや大型トラック、トレーラー、タンクローリーなどの近代的な車両もその道を行く。ベンツやトヨタの高級車が砂埃をあげて荷馬車を抜き去る様子は、経済的発展まっ最中の中国という国をよく現わしている。

少し大きな町に入ると、朝の雑踏の中に青空市場がにぎわっている。バス停に並び話に興じる人々はすでに手に入れた品物の自慢をしているのである。か、大きな荷物を抱え、笑顔で並んでいる。市場には思い思いの商品が並べられ、自転車の荷台で肉を解体している行人に注文を出している人々。きれいな衣服を羨望のまなざしで見入る女性たち。絨毯を手にとって値段交渉をしているのである。か、真剣な表情で言い合っている男たち。少し離れた場所ではロバや馬がうつろな目で突っ立っている。ここには弱肉強食の資本主義原理が席巻して、新しい富と新たな貧困を作りだし、同居させているのだと思う。

道が町はずれにさしかかる



と、近代的な建物は影をひそめ、赤いレンガを積み上げた伝統的な平屋の農家が立ち並ぶ。家々の屋根には、やたらとテレビアンテナが目につく。帰りの道中では暖房用の炉の煙突から煙がたなびいていた。山岳地帯の家屋は寝床の下が暖房用の炉になっていて、寝床となる一畳程度のところだけ温まるようだ。燃料は石炭である。ここにも新しいものと古いものの同居を見る。

赤い伝統的の衣服を見つけて道端にたたずむ女たちも、親に

急ぎ立てられて歩む少年も、焦点の定まらない目つきは共通している。建設資材を肩に担ぎ急ぎ足で作業現場に向かう男も、トラックの荷台の最後尾で車が揺れるたびに慌てて荷物が落ちないように支えている青年も、眼光はどこか生氣がうせているようだ。都会の豊かさを知る人々の落胆と憔悴の表情だろうか。

さらに道は山間へと続く。

村々は先ほど見た小さな町よりもさらに貧しいと感じる。家々の屋根には大きな籠に収穫したトウモロコシがいっぱい入れているのを見る。ネズミに食べられはしないのだろうかと思ってしまう。

ここに住んでいる人々は地味な服装で多少汚れた衣服をまとっている。皮製の防寒服をまとって三輪オートバイを駆る男は、羽織った綿入れを風になびかせながら、自転車をこいでいる男を追い抜き、背負子に山盛りの木切れを背負って歩く老人に容赦無く白煙を浴びせ掛ける。

しかし、どうしたことだろうか。道端で収穫した作物の天日乾燥を、ぼんやりと眺めている

老婆と子供。屋根の上で乾燥させたとうもろこしを、籠に戻しながら箒で屋根を掃除している夫婦。乗合タクシーであろう三輪トラックの、荷台に揺られながら話しに興じる初老の人々。畑とおぼしき所で、羊が草を食むのをぼんやり眺めている守人。

みな、屈託のない笑顔と闊達な表情がある。都会の豊かさをまだ知らないのではないかと思ったが、まだ資本主義に毒されていないとも考えられる。

山岳道路に入ると、北向き斜面には残雪が見うけられるようになる。峠を超えてしばらく行くと、道路にも雪が凍結して残っている。我々の車は、天文台まであと数キロというところで、大きくスリップし、路肩に乗り上げてしまった。幸い怪我人もなく、車もフエンダーとフォグランプにダメージがあつたぐらいで、走行には差し支えないようではあるが、いかにせん、側溝を超えて路肩の盛り土に乗り上げたものだから、後輪の片方が溝に落ちて浮いた状態でもまってしまった。脱出を試みるも、駆動輪の片方が浮いているのではどうしようもない。

車輪の下に石を積み上げてみたが、その石が跳ね飛ばばかりである。そのうちに天文台の建設工事関係車両が砂利を満載して登ってきたので援助を求める。1台目は天文台に救援を求めるために1名送ってもらい、2台目には牽引用のワイヤーロープで、バスを引きずり出してもらう。さすがに地元の運転手は道路状況に合わせた的確な運転ができる。非常にスムーズに曳いてくれたので、脱出時のショックも最小で済んだ。

帰り道、夕日が広大な大地を赤く染め、落ちていく。日本国内では見られない、大陸特有の日没風景だ。これを美しいと思うかどうかは人それぞれだが、僕は好きだ。

道路の両側に植えられた木々は夕日の逆光で黒いシルエツトとなり、行き交う人々の背後から伸びてきている。2つの影は彼らの満足と多少の疲労の交錯を象徴しているようだ。

今の日本ではもう見られなくなった、一日中働いた人々の顔に、一種の安堵感を感じるのは何故だろうか。

ニユースに一喝!

学歴詐称

衆議院議員の古賀なんとかさんが、アメリカの何とか大学を卒業したとかしないとか。こんなことをつづく方も学歴偏重を有る意味で助長している張本人だが、それはさておき、そういわれて、自分のことなのに、のこのこアメリカまで出掛けてその事実を確かめに行くということが何とも解せない。大学の卒業ということがそんなに自分でも卒業したかしないのか分らないような曖昧模糊としたことなのだろうか。卒業証書があるかどうかは知らないが、少なくとも自分が卒業したのか、してないのかぐらいは分

かっていると思うのだが。わざわざ卒業していないというお墨付きをもらいに行ったようなもので、恥の上塗りということではないか。

以前、ラジオかテレビのタレントがやっぱり卒業もしていない大学を経歴に書き込み、それがばれて結局何もかもパーにしたことがあった。真相は、その大学が、議員が卒業生なら、それを使って何かしようと思つて調べたら名前がどうしても見つからなかったという事だったという。そうしたら、今度は安部幹事も留学の経歴がウソっぽいか、小泉さんまでそうだとか。嘘を吐いてまで、学歴を詐称する

というのはやっぱり学歴社会か。もうそろそろ学歴社会から卒業したいものだ。何処の大学を卒業したかも大切かも知れないが、何よりも、何をしてきて何が出来る人なのか、ということがより大切ではないか。

(2004・2・8記)

後日談になるが、この問題に深入りすることを議員の皆さん方どうも尻込みなすつているようだ。学歴などはどうでもいいというのなら結構だが、つければ同じ穴にいつばいムジナが居るのかも知れない、と勘づつては失礼ですね。(田)

にわとりあわれ

牛のBSEに続いてとりインフルエンザで世の中大騒動。その前に鯉ヘルペスなどというのがあった。さらに、豚にもインフルエンザが感染し、下手をする人間にも感染するような突然変異があるかも知れないなどと言う。よく分からないから不安と恐怖がまき散らされる。

それにしても鶏がどんどん死に、残った鶏も一網打尽に処分されてしまうと聞くと、鶏の哀れさ、無念さが思いやられるし、その原因を作ったのは結局は人

間なのだが、その非情さに胸が痛む。あの狭いゲージの中での生活、まともなものでも病気になるそう。ああやって大量に飼育され、卵を産ませるから、我々がやすく鶏肉や卵を食べることが出来るという恩恵を受けていることは重々承知だが、それでも命有るものをあの扱いは可哀想だ。私も、小さい頃鶏を飼っていたことがあったが、利口な動物で、よく人になつく。誰かさんたちが、鯨やイルカは利口な動物だから食べてはいけな

いなどと言っているが、そんなら鶏も同じ事。牛だって豚だって同じ事だろう。人間は全ての生き物の犠牲の上で生きているのだ。そのことをよくわきまえ、それに感謝して生きなければならぬと思う。少なくとも、食べ残しなどの無駄をしてはなるまい。

こんなことを言うつもりではなかった。BSEにしても、とりインフルエンザにしても、マスコミの報道はやら恐怖をおおっているのではないかと思われることだ。この病気についてきちんとしたことを報道して真相をはっきりさせて欲しいものだ。一寸考えても、インフルエンザに罹った鶏だって、その肉にインフルエンザ菌があるわけでもあるまい。それとも何か毒素が残って、食べると害があるというのだろうか。それなら、鶏処分の理由も分かるが、一体そうなのか、どうなのか。最近、加

工した物はいいいいということになってきた。冷静に考えれば当然だ。最初から何故そういえないのだ。BSEに関して病原体であるプリオンが、悪さをすると言うのだが、それにしても、牛の体全体にそれがあるのかどうか、あまりに神経質だと思ふのが間違いか。アメリカで自国にBSE汚染牛が出たあとの処置、日本と比べてまことに大ざっぱ。もし、逆の立場だったらアメリカはどうしただろうか。これもBSEの害について徹底的にその危険性について明らかにして欲しい。やたら訳も分からずに不安を助長して欲しくない。こういう事こそ、まともなマスコミの仕事ではないだろうか。社説に「過度な恐れが必要ないが」というのがあったけれども、これも説得力はなかった。

(田 2004・2・8記)

教職員委員会活動日誌 (2004年1・2月)

月 日	事 項	場 所
1月 5日(土)	平和憲章17周年記念企画実行委員会	名大職組書記局
5日(土)	新年集会	フレンドリィ南部
13日(火)	1月度常任理事会	ゆ〜どん
14日(水)	1月度第1回教職員委員会	ゆ〜どん
19日(月)	平和憲章17周年記念企画実行委員会	名大職組書記局
19日(月)	防災&ボランティアフォーラム	環境学研究科棟
20日(火)	1月度理事会	フレンドリィ南部
28日(水)	1月度第2回教職員委員会	ゆ〜どん
29日(木)	平和憲章17周年記念企画実行委員会	名大職組書記局
2月 2日(月)	工学研究科長インタビュー	工学研究科長室
5日(木)	平和憲章17周年記念企画 「笠木透とともに過ごす平和憲章の夕べ」	フレンドリィ南部
9日(月)	2月度常任理事会	ゆ〜どん
16日(月)	2月度理事会	フレンドリィ南部
20~22日	初心・初級スキー教室	ホワイトピアたかす
21日(土)	地域センター総会	フレンドリィ南部
25日(水)	2月度第1回教職員委員会	ゆ〜どん

安曇野ちひろ美術館訪問ツアー報告その三

文 矢田元彦（難処理人工物研究センター）

ちひろ色の発見と感動の旅

心に残る感動の旅を目指して、訪問ツアー最終日は『安曇野ちひろ美術館』の鑑賞。場所は、北アルプスのふもと、信州は安曇野・松川村にある。その早朝は、曇り空だった。松川村は、ちひろのふる里でもある。ちひろの思いが、豊かに込められた美術館。その屋根は、北アルプスの尾根



ちひろ美術館玄関前

と相い似ている。憧れて夢にまでみた、あの、ちひろの絵に、初めて対面するのだ。足は緊張して小刻みに震える。胸を熱くしてドキドキと感極まる。唇乾いて、北アルプスの連峰を眺める。また、眺める。ちひろも幼い頃から北アルプスを眺め親しんだことであろう。はやる心を抑えて美術館の飛び石を渡り、また、渡る。

付を通った正面には、大きく広がったガラス面。磨かれて中庭が透けて見える。紅葉した櫛が、晩秋を知らせていた。この場所は、多目的ギャラリーとして活用されている。「企画展や講演会、ワークショップ、コンサートなども随時開催」という。受付の右手には、エントランスホールからミュージアムショップへと広がっている。「ちひろの絵はがき、グッズなどが、色鮮やかに、

受

豊富に販売されている。

さらには、コレクション作家のグッズや、ちひろ美術館が選んだ「スーホの白い馬」など100冊余りの絵本が陳列されている。床には地元の木材が使われたり、土壁があつたりして昔の民家を懐かしく思い出させてくれる。特に館内の天井は高く、唐

松の垂木が架かつて親しみを増す。広い空間からは、「パッハ作曲『G線上のアリア』」の曲を感じ起こさせるような哀愁を帯びた雰囲気がある。

○ヴィオロンの「その日は美（は）しき」秋の朝 元彦

従

業員は朝早く白壁に、ちひろが好んで描いたピンクや黄や赤色の薔薇を、一輪、一輪、丁寧に飾りつけていた。私の心は、人を優しく愛する気持ちを募らせる。絵本画家、ちひろの思い出が満ちあふれた「ちひろの仕事場 展示室1」の前に立つ事ができた。とても嬉しく、熱い胸の内は震えながら「ちひろの心の扉」を、ゆつくりと、やさしく開らく。ちひろの絵を見るためだけに作られた



遊べるオブジェも美術館のこだわり

世界へ誘われてゆく。ちひろのプロローグを読む。ちひろの本名は、「知弘（ちひろ）」と命名され、1918年12月15日雪の降る朝に誕生。少女時代は、絵を描くのが大好きで天才だったという……。初期素描、油彩、絵本の原画から、代表作などが70点ほど紹介されている。画業の全体像を、なめるように鑑賞できて、思う存分ちひろの絵と語り合える場所である。ちひろの絵の一枚一枚に、祈るような気持があふれる。手持ちの大学ノートに、俳句で、ひとつひとつ印象を書き連ねる。

- 少女らは子犬を守る百合揺れて
- 少年は赤いポストに年賀入れ
- 子供らは楽器を鳴らす春の歌
- 夕焼や「はないちもんめ」母の声



俳

○赤い靴光る少女や冬カモメ
 ○教室で工作をする春の昼
 ○客となり「ままごと遊び」花庭
 ○肩並べ月を見ている影法師
 ○ネギ坊主蝶々追うって日が長し
 ○青梅雨に傘クルクルと下校する
 ○羽子(はね) つけば大きなリボン
 揺れにけり
 ○大銀河「てるてる坊主」寝静まる
 ○遠き日や母に抱かれた子供の日
 ○小さな手つづらな瞳毛糸編む
 ○光る子よ野の中走れ風青し

句でスケッチをしていると、あつという間に時間が過ぎて行く。急いで

次の、「展示室2・・・ちひろの人生」を観る。そこには、墨絵の手法による暈(ぼ)かしを用いた個性的な色彩の品々、的確な素描やスケッチに食い入る。また、宮沢賢治、武者小路実篤らの影響を受けた作品などを通して、ちひろの人間像を想像する。次の「世界の絵本画家の展示室3、4」には、エフゲーニー・ラチョフ(ロシア)『てぶくろ』、ピネツテ・シュレーダー(ドイツ)『わにくん』など、世界各国の代表的な絵本画家の作品を観る。さらに、「絵本の歴史・展示室5」では、『死者の書』断簡(出土地・年代不明)や、江戸時代前期の絵巻物『俵藤太』から20世紀初頭の絵本にいたるまで、イラストレーションの歴史に関わる作品・資料などが紹介されている。ち足りた気持。『安曇野ちひろ美術館』の外に出ると、周りには約35000平方mの公園(松川村営)が広がっている。その脇を北アルプスから流れ出る清流、乳川(ちがわ)が、先を争って速い勢いで流れていた。時の流れは休みなく、無情に速い。何とかして時の流れに、私の杭を打たねば流れ

満

ちひろ美術館の外に出ると、周りには約35000平方mの公園(松川村営)が広がっている。その脇を北アルプスから流れ出る清流、乳川(ちがわ)が、先を争って速い勢いで流れていた。時の流れは休みなく、無情に速い。何とかして時の流れに、私の杭を打たねば流れ

公

去ってしまう。焦りを覚える。○山里の紅葉流れる水迅し

元彦

園の一隅には、ちひろが建てた黒姫山荘が復元されていた。当時はアトリエとしても使用されていたという。座り机の上には、絵の具のついたパレット、画用紙、花瓶が無造作に置かれている。また、この山荘で制作された絵本なども展示されている。

○白紙より少女出でしよ秋の薔薇

元彦

ちひろ47歳(1966年)、長野県上水内郡信濃町の黒姫高原の山荘で絵筆を休めては遠く山脈や、葛の白き葉裏を眺めて「絵のない絵本」などを制作していたのであろう。復元された山荘では、はや「紅葉する木もあれば散る木々もある。紅葉しながら、かつ散るものもある」。

○山荘の紅葉且つ散るちひろ色

元彦

ち

ひろ」の色彩は、繊細で暖かく優しい。心がほっと一息できて癒された気持ちになる。この特徴の色は、ここ安曇野の中で息づいている。私は、その色彩を「ちひろ色」と

表現する。言葉では表現できない。音楽を聴くようだ。安曇野の自然には、いまもなお、「ちひろ色」は暖かく見守っている。ちひろの美は、色彩だ、形だ!心の真実に、いざと姿を与えてくれている。ちひろは、美の道を求めて、さらに前へ踏み出そうと努力した姿勢に共感する。ちひろが求めようとした道を遙かに眺める。「人間よ本を読むんだ。人間よ、もつと考えるんだ」。そう、ちひろは、教えてくれるようだ。

い

まもなお、「ちひろの絵本は、世代を超えて愛されているのは、なぜ?」その答えを見つけようとしたのが、私の今回の、旅の目的であった。その解答は、「ちひろ色」として安曇野に残してきた。いいえ、名古屋大学のキャンパスにも眼前に、『ちひろ色』は満ちあふれているではないか!。私の人生の後半は、豊かさについて深く考えていきたい。輝く自分を具体化して育んで行きたい。それが、私の目指す生きる道である。

○春立ちてキャンパス来る日輝けり

元彦

「初心・初級スキー教室」の報告

向上心旺盛な子供たちは 驚きの上達

3年ぶりのスキー教室

去る2月20日（金）の夕刻から22日（日）の夜にかけて2泊3日のスキー教室に出かけた。参加者は教職員委員のメンバー3人と家族親子3人の計6人で、メンバーの河合さん所有のワゴン車一台に乗って出かけた。午後6時30分に北区の三浦さん家族の居住地近くのサークルKの駐車場で合流し、一路41号線



雪に埋もれた箕浦山荘

を小牧、美濃加茂、可児、美濃市と走り、美濃市内の入り口で24時間営業のジャスコで2泊3日6人分の食料、4〜5食分を調達する。主なメニューは、到着した夜は、ビールのつまみ主体。初日の朝食は、ごはん、みそ汁、ハムエッグ、焼き魚、おひたし。昼食はスキー場のレストハウス。夕食はすき焼き。二日目の朝食は初日と同様。昼食はカレーライス。6人全員で食べたいものやお菓子、デザートなどわいわいと1時間ほど買い物を楽しむ。別荘到着は、午後11時近くになつてしまった。

山荘は雪に囲まれて

参加者メンバーの箕浦さんの山荘は、2m近い雪に囲まれて入り口がない。身長も胸ほどの雪山によじ登って屋根軒下に入り込み、スコップを取り出し除

雪作業から始める。10分ほど汗を流すと、ようやく一人一人通れる通路を確保。荷物の搬入、ストーブの着火、水道、プロパンガスの開栓とそれぞれ手分けして部屋に落ち着く。山荘の周辺は2m近い積雪で赤松とコナラを主体とする明るい別荘地帯に建っている。雪は多いが今年はとて暖かい。例年軒下に見られるつららが全く見られない。赤々と轟音を立てるストーブの周りで、大人は焼き餃子とスルメを肴にビールで乾杯。子供達はしばらくゲームに夢中である。

スキー初日

午前6時起床。朝食メニューを作る。炊きたてのご飯とみそ汁、干物の魚がおいしい。8時過ぎスキー服に着替えて、「ホワイトピアたかす」に出かける。帰路、「牧歌の里」で入浴するので、下着の替えを持参する。土曜日のスキー場は、相当に混雑していた。快晴で暖かい。景色も白山が全貌を表し、石川、福井国境の山並みが白銀に輝く。全員一日券で午前中はマンツーマンのス



山頂で記念写真

キー教室である。中央ゲレンデで安全に滑降するためのブルークボーゲンをマスターする。午後一時まで滑ってから昼食にする。午後は全員で4人乗りクワッドで最高点に登り、ゆつくりと滑降する。スノーボーダーが多く、滑りにくい。それでも注意しながらコーチが先頭、中間、最後尾に入つて安全に注意しながら、ほとんどの中級程度のコースを滑れるようになる。4時45分のリフトが止まるまで滑

たかす雪祭りで花火をバックに



る。

たかす雪祭り

帰路、「牧歌の里」で入浴して帰ることにする。その夜は、雪像祭りと歌やアニメ、花火等の催しと重なって、午後8時まで駐車場からでられず、催し物を最後まで観る羽目になる。結果オーライでそれなりに雪国の夜を満喫できた。露天のテントが20張ほど出て、飛騨牛の串焼きやみたらし、五平餅やアイスクリーム、ビールや飲み物等々、にぎやかなお祭り見物をした。

夕食はすき焼き

雪祭りのために、夕食時間が午後9時になってしまった。それでもすき焼きを作り、ビールとワイン、焼酎などでスキーに疲れた身体を癒した。すっかり美酒に酔いまどろむ者、天体望遠鏡で子供達に冬の星座を案内するメンパーとサーピス精神満点のアフタースキーの夜でした。

二日目のスキー

明け方より空模様がどんよりとして、今にも降り出しそうである。子供達は、ジャンプゾーンを整備してある昨日のゲレンデがお気に入り。結局、今日も同じゲレンデに行く。最初の一本目は、慎重にゆっくりと先導して滑る。もう子供達の上達も早く、最高地点に登っても一回も転倒しないで下まで滑降が可能である。中央ゲレンデには5回ほど連続するジャンプがこしらえてある。これにチャレンジするのである。ついにはお母さんも誘われて、断り切れずにチャレンジする。子供達の向上心の旺盛さに親もびっくりである。雨も

ジャンプのついで

白い雪がいっぱいあった。家のまわりにもいっぱいあった。どこから家に入るのか分からなかった。

庭で雪合戦やおにこっこをしたよ。ふわふわですっぽり雪に入って冷たくて楽しかった。

スキー場に着いたら、はやくすべりたくなった。でもお母さんといっしょはほんとは少しいやだった。

ぎゃーとかさげふし、リフトもとめる。でも、よかったよ、スキーの先生はかわいさんだった。

びゅんびゅんすべった。うまいねって言われた。止まれるようになった。まがり方もできた。



ジャンプの人みたいに頭を下げて、小さくなってストックをつかないとびゅんびゅん早くなっておもしろかった。

4つのジャンプ台をすべったら体がういて「やったー」と思った。行ったところがなところやこけそうなくらいなめの坂が好きだった。下をみるとどこを通ればいいのかすくにわかった。なめの坂はすぐに終わってしまうけど、気持ちよかった。

お母さんはリフトを止めなかつたけど、ほくが止めた。リフトから落ちたらお兄さんが助けてくれた。それから知らない人とリフトにのったら、痛くないかとかうまくなれよって言ってくれたのでうれしかったです。

もつともつとまっついていっばいすべりたいです。こんどはお母さんとリフトののつてもいいよ。

また、こんどかわいさんとみのうらさんとちゅうじょうさんといっしょにみんなで行きたいです。

三つら 終

降ってきたので12時30分まで滑って、山荘に戻る。

昼食はカレーライス

お腹も空いたが、作った量が半端でなかったためか、一人2〜3杯割り当てになった。今日は帰宅するので山荘に残してゆくわけには行かない。カレーは何と

か食べ切り、残ったご飯は、おにぎりにして持ち帰る。午後3時30分山荘を後にする。「牧歌の里」で入浴し、土産を買って5時近くに帰途に就く。郡上八幡のあたりで12kmの渋滞に巻き込まれる。お腹も空いておむすびが飛ぶように売り切れた。関SAで休憩して、名古屋に8時に戻る。

来年は足を揃えて滑りたい

子どもといっしょに始めたスキーは今回で3回目でした。みるみる子どもたちに差をつけられ、やる気はあっても頭でスキーはできないと実感し、夫に「年を考えるとよーけがをするぞー」と反対されながらも今回の参加を決めました。身体のかたさで反射神経の鈍さはともかく、親切な先生方に困まれ、めきめき!?と予想以上に上達し(たと思いたい・・・)、子どもたちと同じコースをすべることができるようになりました。

まだまだ、余裕のないすべり方のため緊張はしますが、気持ちいいなあと感じる瞬間がたくさんありました。親切でいいねいな指導、おいしい食事、星空をみながらの天文教室、温泉・・・楽しい時間をありがとうございました。



三浦清世美

子どもたちがスキーを始めた頃のように「楽しい!」「もっとすべりたい!」といってくれたこと、子どもたちの生き生きとした表情が私にとって何よりの喜びです。

来年の目標は足をそろえて滑ること!ぜひ企画してくださいね。

お母さんより早くなったよ

スキー教室に参加しました。お母さんの仕事が終わってから出発したので、車の中で寝ました。途中で、食べるものをたくさん買いました。お店が近くにないのだと思います。夜、遅く家に着いたとき、雪のかげが私の頭よりも高くて家に入れるかどうか心配でした。じゃ雪車もないのに、スコップで通れるようにしてくれてありがとうございます。家に入るところもりが待っていてくれました。外は寒くてかわいそうなので、いっしょにとまることになった時、ときどきしました。

寝るとき布団の中で、スキーはこけるとこわくていやだけとだいいじょうぶかな?先生はこわいかな?と考えました。

朝起きて、それからスキー場に



行きました。リフトにのったら前にこけたことを思い出して、泣きそうでした。

みの浦さんが先生でした。知らないことをいっぱい教えてくれました。やさしかったです。だんだんすべれるようになって、こわくなくて、すべりたいと思いました。何回もすべったら、山や空がきれいに見えました。ジャンプ台も通りました。体がうくとときちょっとわかったです。お母さんがジャンプ台をすべるときはゆっくりなのでぶつかりそうになります。お母さんはこわそうにすべっていました。

中じょうさんの包丁の音がしたら、いいにおいがして、目が覚めました。カレーもおみそ汁もおいしかったです。かまくらもはじめて入りました。夜、河合さんがほうえんきょうで星をみせてくれました。前に、家の近くで星のかんさつをしたときよりもきれいで、大きくてびっくりしました。手がどきそうでした。寒いのに教えてくれてありがとうございます。

スキーが好きになりました。スノーボードもやってみたいです。本当に楽しかったです。三浦 楓

名大生協



「かけはし」編集委員会行

.....山.....折.....り.....

○氏名 _____ 組合員証番号 _____

○所属 _____ 研究科 _____ 専攻・課 _____
学部 _____ 学科・掛 (教職員・院生) _____
センター _____

○連絡先 _____ 内線 _____

○誌上匿名希望の方はペンネーム _____

.....山.....折.....り.....

①イラク戦争1周年講演「劣化ウラン爆弾・・・」【3月19日(金)】

②御在所岳ハイキング【4月29日(祝)】

参加申込用紙

番号	氏名	所属	内線	年齢	組合員証番号

②は保険の関係で年齢が必要ですので必ず記入して下さい。

_____ アンケートに _____
_____ ご協力願います。 _____

第 252 号

クイズのこたえ _____

☆ 今月号を
読んだ感想

☆ 記事にしてほしいこと。生協への
ご意見やみなさんからの通信をぜひ。

COOPクイズへの応募、アンケートの回答は、<http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/kakehashi/answer.html> から送信できます。また、e-mail:kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jpでも受け付けます。必要事項をみれなく記入してください。

ひとりごと



大量破壊兵器のないことが明白となり、イラク攻撃の正当性は失われた。それでも日本の国会は、イラクに自衛隊を送る法律を「審議」している。審議すればするほど破綻する「自衛隊派遣」の意義は薄いようもなく、先遣隊の「安全情報」が捏造されたという証拠までも露わとなった。

ところが、小泉内閣は強行採決に走った。議会議制民主主義の破壊である。

それを支える与党自民党・公明党の内部にさえ異論があり、野党がこぞって反対しているにもかかわらず、「自衛隊派遣」である。米国の約束を果たすと言う「結論」しかない彼らにとりて、国会審議はボロが出るばかりで無意味なのだろう。

などと発言した。これが小泉のいう「国民に対する説明」の正体だとしたら、ファシズムと言わずに、なんと表現したらよいか!!

新憲法前文起草の候補者として石原慎太郎の名があがっている。彼の排外主義や社会的弱者

ファシズムの足音

高いと言われている。養護学校はそれを教師と保護者が協力して造り上げてきたもので、教育関係者や研究者からも高く評価されているものだ。ところが、石原慎太郎の意を受けた東京都教育委員会は、養護学校の性教育を禁止し、教材を取り上げ、教師を処分した。

これら二つの事件は、何れも教育基本法違反、憲法違反である。

かつて、政府や権力者が一方的見解を学校教育におしつけた時、日本は未曾有の侵略戦争に手を染め、破滅の道を辿っていった。

今、同じ音が近づいている。刻一刻と、ファシズムの足音が!

(理学部 河合利秀)

高校生が武力に頼らないイラクの復興支援を求める署名簿を提出した。自ら考え、自らの行動で集まった5358人の署名は立派だ。ところが、それを受け取った小泉氏は、「イラクの事情を説明して、なかなか国際政治、複雑だなあという点を先生がもっと生徒に教えるべきですね」

高校生が武力に頼らないイラクの復興支援を求める署名簿を提出した。自ら考え、自らの行動で集まった5358人の署名は立派だ。ところが、それを受け取った小泉氏は、「イラクの事情を説明して、なかなか国際政治、複雑だなあという点を先生がもっと生徒に教えるべきですね」

石原都政は養護学校の性教育に「露骨すぎる」と言いがかりをつけた。障害児にとって、性教育は「生きていくための知識」として重要だ。知的障害をもつ児童は性的な虐待を受ける可能性が

1・2月号 の感想

イラク問題は良かった

★時事問題として、イラクが取り上げられているのは良かったです。文系の専門の先生による解説記事やインタビューなどがあれば、より読み応えがあると思います。ロジックは簡単すぎでした。

【MTB】

自衛隊派遣の賛否を紙面で

★「主張」や「ニュースに一喝！」に取り上げられていた、自衛隊派遣反対関連の記事を興味深く読ませていただきました。このことについて、ぜひ賛成・反対の双方の意見を紙面上で戦わせて欲しいですね。両者の立場の共通点・相違点を対比させ、「どこに重点を置くから反対（あるいは賛成）」と主張するのかを明確にさせてください。【中村友昭】

でも無農薬がいい

★COPPみかんは農薬が半分。でも、本当は無農薬がいい。難しい問題だ・・・

【BB4】

そば打ち体験記で盛り上がり

★いつも拝読させて頂いておられます。民宿でそば打ち体験記を楽しく読ませて頂きました。実は私の家族、妻と子供二人の写真が載っていました大変うれしかったです。家中で盛り上がりま都合して、参加したいものです。

【松本哲男】

地下鉄本数少ないよ

★地下鉄開通バンザイ！でも本数少ないよ。【赤松保雄】

私の時差体験も辛かった

★時差、私もこの間体験した。アメリカに着いた日がつらかった。帰りはずっと起きていたら結構楽に日本時間に順応できた。

【子ロ】

時差ぼけは辛いですね

★時差ぼけは辛いですね。慣れるのに4・5日かかるが、普通慣れる前には帰ってきてしまう。

【J】

様々な記事が興味深かった

★初めて読みましたが、様々な内容の記事が掲載されていて、大変興味深く読ませていただきました。次号も楽しみにしています。

【ベイダー】

次回もチャレンジしたい

★初めてクイズを解いてみました。面白かったです。次もチャレンジしたいと思います。

【のうのう】

初めてクイズに挑戦してみました。

【西浦正樹】

今回のロジックは単純すぎ

★今回のロジックは答えがというのではなく、ロジックとして

単純すぎると思う。次回に期待したい。

【わかめごはん】

▼クイズは難しいと応募者が減り、簡単にすると増える。先号はおかげで先々号を上回った。編集部としては多くの組合員の交流の場としてのこの輪を充実させたいのであるべく簡単にしたいと思っている。クイズ好きの読者は難しい方が解き甲斐があり応募者が少ないと当選確率が上がって喜ぶ。どちらを採るべきか。今回は読者からの出題である。ちよつと難しいので応募が減るのではと内心心配である。

【編集部】

11・12月号 の感想

おもしろかった

【セブラ】

これからも頑張って

★かけはしが250号というところで本当に長い間続けるのは大変だと思えます。この先も頑張ってくださいと願っています。

【何もイワンレンドル】

意見と通信

地下鉄開通後の変化を知りたい

★名古屋大学駅が実際に開通したあとの変化や利用者の意見などが知りたいです。【(うのう)】

保存版路線地図と時刻表を

★年一回、名古屋大学に関連する全ての地下鉄・バス時刻表と路線地図を保存版として作成する！っていうのはどうでしょう？ 【BB4】

イラクは自衛隊を望んでいるか

★いよいよ自衛隊が現地入りだ。イラクでは本当に自衛隊を望んでいるのだろうか？ 我々も、そろそろテロに警戒しなくては・・・ 【赤松保雄】

クーポンをつけて

★生協で使えるクーポン券をつけて欲しい。 【チロ】

執筆者名は載せるべき

★いつもとはいわぬまでも、たびたび拝読させて頂いております。ときおり無記名の記事が見受けられますが、執筆された方のペンネームだけでも載せるべきではないでしょうか？

【わかめごはん】

▼かけしは組合員相互の交流の場でもあると考えております。もちろん文責は誰にあるのかを明記しなくてはならないこともあります。筆者を明記することで顔の分かった交流も目指しております。主張は委員会からの見解ですので主たる筆者名は記載しておりません。それ以外はなるべく実名を記するように努めております。筆者の希望でイニシャルにしている記事もありますが基本は実名にしたいと思っております。無記名記事は編集作業の段階で入れ忘れてしまったと言ふことですのでご理解下さい。 【編集部】

インタビューがないぞ

★今回はインタビューの記事がありませんでしたが、研究内容や姿勢がよくわかり続けて頂きたい企画の一つだと思います。 【松本哲男】

年金制度改革を分かりやすく

★年金制度改革について、わかりやすく説明を。大学生や院生は国民年金についてどう考えているのだろうか？ 【J】

温泉設置いいですね

★地下鉄開通に伴うイベントや新店舗、新企画などあれば紹介して欲しい。

・『意見と通信』にあった『温泉の設置』。いいですね。賛成に一票。もし実現すれば、研究が深夜に及ぶ学生にはありがたいです。 【MTB】

ロジック作ってみました

★Logic、簡単すぎ(涙)。ってことで、難しいのを作ってみました。別途E33します。自分で解いても結構時間かかりました(でも論理的に解は得られます)。良かったら使ってください。 【よし】

▼クイズの出題ありがとございませう。早速今号で使わせて頂きます。 【編集部】

鶴舞にデジカメ関連増やして

★生協への意見としては、デジカメや関連商品をもっと増やして欲しいです(東山はわかりませんが、鶴舞は物足りないです) 【ベイダー】

土曜の品揃えの充実を

★理系コンビニにおいて、土曜の品揃えを平日と同様、充実させてほしいです。お腹がすいて買いに行ったとき、品物がなにととても残念です。お願いします。 【ゼブラ】

図書券はいつ来るのかな

★第250号のCO-OP QUIZに当選したので、図書券の到着を楽しみにしているのですが、いつ頃、どこに送られてくるのでしょうか？ 2月11日現在、まだ届いていないのですが・・・ 【中村友昭】

▼ご迷惑をおかけしております。卒業・進学の時期ですので大学を去られる前には先号までの当選者に届くように発送いたします。 【編集部】

